

塗料・印刷インキ用添加剤

ディスパロン®

DISPARLON®

Additives for coatings and printing inks



Kusumoto Chemicals, Ltd.

水系用 (ダレ止め・顔料沈降防止)

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特徴	標準添加量 % ※1	適用樹脂			機能		添加方法		備考	
						水溶性樹脂	デイスパージョン	エマルジョン	高増粘	低増粘	ブレゲル※2	直接添加	有機則※3	有機溶剤フリー
AQ-001 ☆	アクリル系重合体	水	15	エマルジョン塗料のダレ止めに著効。液状であり添加が容易。 AQ-001：標準品	0.5-5		○	◎		○		○	◎	◎
AQ-002	アクリル系重合体	水	15	AQ-002：AQ-001 に比べチクソ性付与効果が高い	0.5-5		○	◎		○		○	◎	◎
AQ-021 <i>New</i>	アクリル系重合体	BG	20	高増粘 / 高チクソ性を付与。塗膜美観に優れる。 低剪断速度領域でニュートニアン挙動を示し平滑性を損なうことなくダレ防止性を付与。	0.5-3		○	◎	○			○		
AQ-580	ポリアמיד	PM、水	20	水溶性樹脂等、共溶剤含有量の多い塗料に適す。	0.5-3	◎				○		○	◎	
AQ-600	ポリアמיד	PM、水	20	水溶性樹脂からエマルジョン塗料まで、共溶剤含有量の多い塗料に適す。 AQ-600：標準品	0.5-3	◎	◎	○		○			◎	
AQ-870	ポリアמיד	2-EH、水	15	AQ-870：直接添加可能	1-6	◎	◎	○		○	○	○	◎	
AQ-607	ポリアמיד	PnB、水	15	デイスパージョン、エマルジョン塗料等、共溶剤含有量の少ない塗料に適す。 AQ-607：標準品	1-4		◎	◎		○	○		◎	
AQ-610	ポリアמיד	PnB、水	15	AQ-610：共溶剤含有量の更に少ない塗料に適す	1-4			◎	◎	○	○		◎	
AQX-60	ポリアמיד	水	15	AQX-60：有機溶剤フリー品	1-4			◎	◎	○	○		◎	◎
AQ-630	変性ポリアמיד	PM、水	18	メタリック塗料における光輝顔料の配向性改善に著効。共溶剤含有量の多い塗料に適す。 AQ-630：予備分散が必要	1-3	◎	◎	◎		○	○		◎	
AQ-633E ☆	変性ポリアמיד	PM、水	23	AQ-633E：直接添加可	1-5	◎	◎	◎		○		○	◎	
AQH-800 ☆	ハイブリッドアמיד	PM、水	10	デイスパージョン、エマルジョン塗料等、共溶剤含有量の少ない塗料に適す。 直接添加可能で、添加塗料の熱貯蔵安定性に優れる。	2-8		◎	◎		○		○	◎	
AQH-810 ☆	ハイブリッドアמיד	PM、水	15	水溶性樹脂からエマルジョン塗料まで、共溶剤含有量の多い塗料に適す。 直接添加可能で、添加塗料の熱貯蔵安定性に優れる。	1-5	◎	◎	◎		○		○	◎	

☆：代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試しください。

BG：エチレングリコールモノブチルエーテル
PM：プロピレングリコールモノメチルエーテル
PnB：プロピレングリコールモノブチルエーテル
2-EH：2-エチルヘキサノール

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- 塗料添加前に予備分散液「マスターバッチ」を作成してから塗料へ添加する必要があります。
詳しくは p.19 水系チクソトロピック剤 [使用方法] をご覧ください。

※3 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ◎：有機則フリー ○：有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

楠本化成 Official 動画
AQ ポリアמידシリーズ



溶剤系用 (ペースト品 増粘タイプ ダレ止め・顔料沈降防止)

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1		分散方法			機能			法令		
					沈降防止	ダレ止め	前添加 ミル分散	後添加 デイスパー 分散	沈降防止	増粘性	チクソ性	有機則※2	特化則※3	フタフリー	
6900-10S	アמיד	スチレン、エタノール メタノール	10	不飽和ポリエステル樹脂用。促進剤であるコバルトの影響を受けない。	0.5-2	2-3		○	◎	○	○	○			◎
6900-10X	アמיד	キシレン、エタノール メタノール	10	増粘・ダレ止め・顔料沈降防止剤の代表グレード。 粘性を付与しダレ・顔料沈降を防止。	1-3	2-6		○	◎	○	○				
6900-20X ☆	アמיד	キシレン、エタノール メタノール	20		0.5-2	1-5		○	◎	◎	○				
6900-20XN	アמיד	キシレン、エタノール メタノール	20	6900-20X 同等性能に加え、低温期に発生する未分散粒子を低減。	0.5-2	1-5		○	◎	◎	○				
A603-10X	アמיד	キシレン	10	ウレタン塗料用。 6900-10X/20X に比べ、耐剪断性・沈降防止性に優れる。 亜鉛や亜酸化銅など高比重顔料の沈降防止に最適。	1-3	2-6	○	○	◎	○	○				
A603-20X	アמיד	キシレン	20		0.5-2	1-5	○		◎	◎	○				
A670-20M	アמיד	ターペン ベンジルアルコール	20	弱溶剤塗料用。 塗膜の光沢保持性に優れ、建築・防食塗料における仕上がりに優れる。	0.5-2	1-5		○	◎	◎	○		◎		
A671-EZ	アמיד	ターペン ベンジルアルコール	10		1-3	2-6		○	◎	○	○		◎		
BB-102	アמיד	酢酸ブチル、n-ブタノール	10	非常に分散性に優れ、低シア・短時間での分散が可能。 添加後の塗膜透明性に優れる。	0.5-2	1-5		○	◎	○	○		◎	◎	
PFA-131	アמיד	アルキルシクロヘキサン エタノール、IPA	10	粘性を付与しダレ・顔料沈降を防止。6900-10X の環境対応品。	1-3	2-6		○	◎	○	○	○	◎	◎	
PFA-220	アמיד	エチルシクロヘキサン エタノール、IPA	20	PFA-231/250 に比べ揮発しやすい溶剤を使用。インキ用途に最適。	0.5-2	1-5		○	◎	◎	○	○	◎	◎	
PFA-231 ☆	アמיד	アルキルシクロヘキサン エタノール、IPA	20	粘性を付与しダレ・顔料沈降を防止。6900-20X の環境対応品。	0.5-2	1-5		○	◎	◎	○	○	◎	◎	
PFA-250 <i>New</i>	アמיד	酢酸ブチル、n-ブタノール	20		0.5-2	1-5		○	◎	◎	○		◎	◎	

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆ のついた品番からお試ください。

IPA : イソプロパノール

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ◎ : 有機則フリー ○ : 有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未達)

※3 ----- 特定化学物質障害予防規則 ◎ : 特化則フリー ○ : 特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未達)

楠本化成 Official 動画
チクソトロピック剤を学ぼう



溶剤系用 (ペースト品 高増粘タイプ 厚膜ダレ止め・顔料沈降防止)

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1		分散方法		機能			法令		
					沈降防止	ダレ止め	前添加 ミル分散	後添加 ディスパー分散	沈降防止	増粘性	チクソ性	有機則※2	特化則※3	メフリー
6810-20X	アמיד	キシレン、エタノール メタノール	20	建築・防食塗料の厚膜化・ダレ止めに最適。 6900-20X 系統に比べ増粘性が強く、耐剪断性・光沢保持に優れる。 6810-20X : 強溶剤品 6820-10M : 標準品 6820-20M : 6820-10M の高濃度品 6850-20X : 強溶剤品、高増粘タイプ	0.5-2	1-5	○	○	◎	◎	◎			
6820-10M ☆	アמיד	ターペン ベンジルアルコール	10		1-3	2-6	○	○	◎	○	◎		◎	
6820-20M	アמיד	ターペン ベンジルアルコール	20		0.5-2	1-5	○		◎	◎	◎		◎	
6850-20X	アמיד	キシレン、エタノール メタノール	20		0.5-2	1-5	○		◎	◎+	◎			
F-9010	アמיד・ ポリオレフィン	キシレン	30		0.5-2	1-5	○	○	◎	◎	○			
F-9020	アמיד	ベンジルアルコール	15	防食用エポキシ・ウレタン塗料用。無溶剤・ハイソリッド塗料に適す。 F-9010 : 厚膜ハイソリッド塗料向け F-9020、F-9030 : 無溶剤エポキシ塗料向け F-9040、F-9050 : 無溶剤塗料向け	0.5-2	1-5	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F-9030	アמיד	ベンジルアルコール	30		0.5-2	1-5	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F-9040	アמיד	非反応性希釈剤	15		0.5-2	1-5	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
F-9050 ☆	アמיד・ ポリオレフィン	非反応性希釈剤	20		0.5-2	1-5	○	○	◎	◎	○	◎	◎	◎
FS-6010	アמיד	ターペン ベンジルアルコール	10		1-3	2-6		○	◎	○	○		◎	
NS-5025	アמיד・ ポリオレフィン	ターペン、エタノール メタノール	25	建築・防食塗料の厚膜化・ダレ止めに最適。 6820-20M 系統に比べ、塗料がタレた部分の面荒れ・色分かれを改善。 光沢保持に優れる。	1-3	2-4	○		◎	◎	◎		◎	
NS-5810	アמיד・ ポリオレフィン	ターペン ベンジルアルコール	10		1-3	3-8		○	◎	○	○		◎	

☆：代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ◎：有機則フリー ○：有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※3 ----- 特定化学物質障害予防規則 ◎：特化則フリー ○：特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

溶剤系用 (ペースト品 非増粘タイプ 顔料沈降防止)

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1		分散方法		機能			法令		
					沈降防止	ダレ止め	前添加 ミル分散	後添加 デイスパー分散	沈降防止	増粘性	チクソ性	有機則※2	特化則※3	メフリー
4200-10 ☆	ポリオレフィン	キシレン	10	沈降防止剤の代表グレード。 粘度を上げないままチクソ性を付与し、顔料の沈降を防止。	1-5	-	○	○	○	○				
4200-20	ポリオレフィン	キシレン	20	アマイドペーストとの併用により塗装外観の改善が可能。	1-3	-	○		○	○				
4401-25M/25X	ポリオレフィン	ターペン / キシレン	25	4200-10/20 に比べ沈降防止効果が強く、亜鉛や亜酸化銅など高比重顔料の沈降防止に最適。	1-3	-	○		○			◎ / -		
PF-911 ☆	ポリオレフィン	アルキルシクロヘキサン 酢酸ブチル	10	4200-10 の環境対応品。粘度を上げないままチクソ性を付与し、顔料の沈降を防止。 PF-911 : 標準品	1-5	-	○	○	○	○		◎	◎	
PF-930	ポリオレフィン	イソパラフィン混合物	10	PF-930 : 低臭気グレード	1-5	-	○	○	○	○	◎	◎	◎	
PF-920	ポリオレフィン	アルキルシクロヘキサン	20	4200-20 の環境対応品。粘度を上げないままチクソ性を付与し、顔料の沈降を防止。	1-3	-	○		○	○	◎	◎	◎	
NS-30	アマイド・ ポリオレフィン	キシレン	15	4200/4401 に比べ沈降防止効果が強く、亜鉛や亜酸化銅など高比重顔料の沈降防止に最適。 建築・防食プライマーの沈降防止・ダレ止めに最適。	0.5-2	1-5	○		◎	○	○			

溶剤系用 (ペースト品 メタリック顔料・艶消し剤の配向性改善・沈降防止)

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1		分散方法		機能			法令		
					沈降防止	ダレ止め	前添加 ミル分散	後添加 デイスパー分散	沈降防止	増粘性	チクソ性	有機則※2	特化則※3	メフリー
NS-5210A ☆ <i>New</i>	アマイド・ ポリオレフィン	キシレン、エタノール IPA	10	光輝顔料 (アルミ・パール)、艶消しシリカの沈降防止・配向性改善に著効。	3-8	-		○	◎	○	○			
NS-5310	アマイド・ ポリオレフィン	キシレン、IPA	10	NS-5210A に比べダレ面での色分かれ・面荒れを抑制。光沢保持に優れる。	3-8	-		○	◎		○			
NS-5500	アマイド・ ポリオレフィン	石油ナフサ、エタノール IPA	7	光輝顔料 (アルミ・パール)、艶消しシリカの沈降防止・配向性改善に著効。 非常に分散性に優れ、プロペラ等の簡易分散機でも分散可能。	3-8	-		○	◎		○		◎	
NS-5503 <i>New</i>	アマイド・ ポリオレフィン	酢酸ブチル、エタノール 脂肪族炭化水素	7		3-8	-		○	◎		○		◎	◎
NS-8000 ☆	アマイド・ ポリオレフィン	アルキルシクロヘキサン n-ブタノール	10	NS-5210A の環境対応品。NS-5210A に比べ低添加量で同等効果を発揮。	3-5	4-7		○	◎	○	○		◎	◎

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆ のついた品番からお試ください。
IPA : イソプロパノール

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ◎ : 有機則フリー ○ : 有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※3 ----- 特定化学物質障害予防規則 ◎ : 特化則フリー ○ : 特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

溶剤系用 (液状タイプ ダレ止め・顔料沈降防止)

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1	分散方法			機能			法令		
						前添加 ミル分散	後添加 デイスパー分散	塗装現場添加 デイスパー分散	沈降防止	増粘性	チクソ性	有機則※2	特化則※3	☒フリー
301	特殊脂肪酸	-	100	油性・アルキッド系塗料のダレ・沈降防止。 顔料に吸着することで顔料の濡れを改善し分散安定化。	0.5-2	○	○	○	○		○	◎	◎	◎
3350	ポリエーテルエステル	キシレン	50	塩基性顔料 (ZnO、CaCO3) 配合塗料へチクソ性を付与。 顔料沈降・ハードケキ防止。	0.3-1	○	○	○	○	○	○			
3350EF	ポリエーテルエステル	アルキルシクロヘキサン	50		0.3-1	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
3500 ☆	ポリエーテルリン酸エステル	-	100	顔料・フィラーに作用し増粘・チクソ性を付与。 顔料濃度の高い無機ジnkリッチ塗料、無溶剤塗料に最適。	0.1-1	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
3600N ☆	ポリエーテルエステル	キシレン	50	塩基性顔料 (ZnO、CaCO3) 配合塗料へチクソ性を付与、ダレ止め性を改善。 液状の為、施工現場でのデイスパー分散が可能。 3600N : 代表グレード 3800 : 3600N の高固形分品 3900EF : 環境対応・貯蔵安定性改良品	0.3-1	○	○	○	○	○	○			
3800	ポリエーテルエステル	キシレン	94		0.2-1	○	○	○	○	○	○			
3900EF	ポリアמיד	アルキルシクロヘキサン PMA	70		0.5-2	○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎
NVI-8514L	ウレア	N-メチル-2-ピロリドン	35	アמיד系チクソ剤で効果が出づら、極性溶剤 (アルコール等) 含有量の多い配合に最適。要攪拌添加。	0.3-2		○	○	◎	○	○	◎	◎	◎

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

PMA : プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ○: 有機則フリー ○: 有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※3 ----- 特定化学物質障害予防規則 ◎: 特化則フリー ○: 特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

溶剤系・無溶剤系用 (粉末タイプ 増粘・ダレ止め・顔料沈降防止)

品名	主成分	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1	分散方法	機能			用途	
					加温分散 ※2	沈降防止	増粘性	チクソ性	塗料	シーリング材 接着材
308	水添ひまし油	100	天然植物由来原料を使用。2液変性シリコン系に適す。 加温分散することで増粘・チクソ性を付与。アמיד系に比べ低温で活性化が可能。	0.2-1	40-60℃	◎	◎	○		○
6100	アמיד・水添ひまし油	100	6500に比べ低温での活性化が可能。1液変性シリコン系およびシリコン系に適す。 加温分散することで優れた増粘・チクソ性を付与。	0.5-5	50-120℃	◎	◎	◎		○
6200	アמיד	100		0.5-5	50-120℃	◎	◎	◎		○
6500 ☆	アמיד	100	代表グレード。1液変性シリコン系およびシリコン系に適す。 加温分散することで優れた増粘・チクソ性を付与。	0.4-1	80-120℃	◎	◎	◎		○
6300	アמיד・ポリマー	100	6650に比べ低温での活性化が可能。無溶剤・ハイソリッド型エポキシ防食塗料に最適。	0.5-3	50-70℃	◎	◎	◎	○	
6650 ☆	アמיד	100	代表グレード。幅広い分散温度域でダレ防止性を発揮。 防食塗料、船舶塗料用エポキシ・ウレタン塗料の増粘ダレ止めに最適。	0.5-3	50-70℃	◎	◎	◎	○	
6700	アמיד	100	極性溶剤(アルコール等)を配合したエポキシ塗料系に適す。低温・短時間分散においてダレ防止性を発揮。	0.5-3	40-70℃	◎	◎	◎	○	
RE-8000 <i>New</i>	アמיד	100	高温・長時間分散で優れたダレ防止性を発揮。 耐剪断性に優れ、ハイスピードディスペンサー(剪断力の強い分散機)に対応。	0.5-2	60-70℃	◎	◎	◎	○	
RE-9000 <i>New</i>	アמיד	100	6650に比べ低添加量で同等のチクソ性を付与。幅広い分散温度域で優れたダレ防止性を発揮。	0.3-1.5	50-70℃	◎	◎+	◎+	○	
NAMLON T-206	アמיד・水添ひまし油	100	加温分散することで優れたダレ止め性を発揮。比較的低温で活性化が可能。 308に比べ耐シーディング性を改良。	0.3-1	40-60℃	◎	◎	○	○	○

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

※1 ---- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ---- 粉末タイプは加温分散が必要な製品です。p.21 粉末チクソトロピック剤 [使用方法] をご参照ください。

分散温度はあくまで一例であり配合により最適な温度は異なります。

水系用

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	酸価 ※1	アミン 価	特 徴	顔料に対する 標準添加量 % ※2		適用樹脂			備考	
							無機 顔料	有機 顔料	水溶性樹脂	デイスパーション	エマルジョン	有機則※3	有機溶剤フリー
AQ-320☆	リン酸エステル	-	100	14	-	光輝顔料の湿潤分散・配向性改良に著効。酸化チタンや難燃剤の分散安定化に有効。 AQ-320：標準品	1-3	20-30	○	◎	◎	◎	◎
AQ-330	リン酸エステル	-	100	12	-	AQ-330：水との親和性改善品	1-3	20-30	○	○	◎	◎	◎
AQ-340	リン酸エステル・アミン	PM、水	30	18	2	酸化チタン、体質顔料、弁柄など無機顔料の分散安定化・粘度低下に著効。 耐水・耐薬品・防錆性に悪影響が少ない。	3-10	65-100	○	◎	○	◎	
AQ-360	アニオン系界面活性剤・アミン	PM、水	30	26	28	建築・防食塗料に最適。調色安定性に優れ複数顔料の共分散に適する。 耐水・耐薬品・防錆性に悪影響が少ない。	3-10	65-100	○	◎	○	◎	
AQ-380☆	アクリル系重合体・アミン	PM	30	15	11	アクリルエマルジョン塗料に最適。 カーボンブラック・酸化チタン・体質顔料の分散安定化に優れる。	3-10	65-100	○	◎	◎	◎	
AQ-D400 <i>New</i>	アクリル系重合体・アミン	水	30	54	56	高級有機・無機顔料及びカーボンブラック分散に有効。 鮮映性、着色力の向上、仕上がり塗料の色相を安定化。	3-10	65-100	○	○	◎	◎	◎
DA-550	ノニオン系界面活性剤	-	100	-	-	調色工程のある白ベース塗料における酸化チタン分散に最適。 他分散剤と併用しても悪影響が少ない。水系から溶剤系まで使用可能。	1-3	-	○	◎		◎	◎
DA-1831	ポリカルボン酸・アミン	PM	52	57	53	水溶性樹脂など共溶剤（アルコール等）を豊富に含む塗料系に推奨。 無機フィラーの減粘・ハードケキ防止。水系から溶剤系まで使用可能。	2-6	-	◎	○		◎	
DN-900	アクリル系重合体	PM	50	-	-	非イオン系の顔料分散・沈降防止剤。シリカ・酸化鉄・カーボンブラックの分散に優れる。 水系から溶剤系まで使用可能。	2-6	-	○	◎	○	◎	

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

PM : プロピレングリコールモノメチルエーテル

※1 ----- 添加剤の有姿（溶剤を含んだ製品自体）での酸価・アミン価です。

※2 ----- 添加剤の有姿での添加量です。

※3 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ○: 有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未滿) ◎: 有機則フリー

溶剤系用

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	酸価 ※1	アミン価	特 徴	顔料に対する標準添加量 % ※2		適用塗料 ※3			機能			法令		
							無機顔料	有機顔料	低極性	中極性	高極性	顔料濡れ・減粘	後添加可能	沈降防止	有機則 ※4	特化則 ※5	LFフリー
201N/201SPN	特殊表面処理された体質顔料	-	100	-	-	粉末状の色分かれ防止剤。ベナードセル・色浮きを改善。白ベースに適用することで酸化チタンの分散性、塗膜の光沢保持性を改善。	1-3	-	◎	○	○				◎	◎	◎
301	特殊脂肪酸	-	100	200	-	体質顔料 (CaCO ₃ 、ZnO) など塩基性顔料の顔料濡れを改善。乾性油に比べ可撓性を有し、塗膜の密着性・柔軟性を改良。	1-3	-	○	◎	○	○		○	◎	◎	◎
1210	脂肪族多価カルボン酸	キシレン 2-オクタノン	50	170	-	無機着色顔料に適した湿潤分散・沈降防止剤。酸化チタン・有機顔料混合系での色分かれ防止に有効。	2-6	-	◎	◎	○	◎	○	◎			
1220	脂肪族多価カルボン酸・シリコーン	キシレン 2-オクタノン	50	170	-	1210：シリコーンフリー品 1220：標準品。ベナードセル・色浮き防止にも有効	2-6	-	◎	◎	○	◎	○	◎			
1831	ポリカルボン酸・アミン	石油ナフサ IPA	52	53	48	フィラー充填量の多いプライマーのダレ・ハードケーク防止に優れる。ミルベースの分散時間を短縮。	2-6	-	◎	○		○	○	◎		◎	
1850	長鎖アミノアミド・リン酸・アミン	イソブタノール 水、キシレン	45	73	38	黄色酸化鉄、弁柄、体質顔料の湿潤分散、色分かれ・沈降防止に最適。	2-6	45-65	○	◎		○	◎	◎		○	
1860	長鎖アミノアミド・エステル酸	キシレン、水 イソブタノール	50	30	11	有機ベントナイトやシリカのチクソ性を向上・分散安定化。後添加で調色性改善。静電塗装の付きまわり性を改善。	2-6	-	◎	◎		○	◎	◎			
2150	脂肪族多価カルボン酸	キシレン	50	140	-	酸化チタン等の無機着色顔料に適した湿潤分散・沈降防止剤。1210に比べ顔料の濡れ性に優れる。	2-6	-	○	◎	○	◎	○	◎			
2100	脂肪族多価カルボン酸・シリコーン	キシレン	50	135	-	酸化チタンを白ベースとする調色系の色分かれ防止剤。特に焼付乾燥過程の色分かれ・ベナードセル防止に最適。	2-6	-	○	◎	○	◎	◎	◎			
2200	脂肪族多価カルボン酸・シリコーン	キシレン 酢酸エチル	50	135	-	2100：色分かれ防止効果に優れる 2200：リコート性改良品	2-6	-	○	◎	○	◎	◎	◎			
DA-234 ☆	ポリエーテルエステル酸・アミン	-	100	16	20	有機顔料の分散・色分かれ防止に最適。ウレタン樹脂系への相溶性に優れる。	1-3	20-30		◎	◎	◎	○		◎	◎	◎
DA-325 ☆	リン酸エステル・アミン	-	100	14	20	無機顔料分散の代表グレード。フィラーを高充填した塗料の粘度低下・光沢改善。	1-3	20-30		◎	◎	◎	○		◎	◎	◎
DA-375 ☆	リン酸エステル	-	100	14	-	メタリック顔料の分散、床塗料の仕上がりが美観付与に最適。	1-3	20-30		◎	◎	◎	○		◎	◎	◎
DA-550	ノニオン系界面活性剤	-	100	-	-	調色工程のある白ベース塗料における酸化チタン分散に最適。他分散剤と併用しても悪影響が少ない。溶剤系から水系まで使用可能。	1-3	-	○	○	◎	○			◎	◎	◎

☆：代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

IPA：イソプロパノール

※1 ----- 添加剤の有姿 (溶剤を含んだ製品自体) での酸価・アミン価です。

※2 ----- 添加剤の有姿での添加量です。

※3 ----- 塗料極性により推奨品が異なります。詳しくは p.28 溶剤系塗料の極性をご覧ください。

※4 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ◎：有機則フリー ○：有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※5 ----- 特定化学物質障害予防規則 ◎：特化則フリー ○：特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

溶剤系用

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	酸価 ※1	アミン価	特 徴	顔料に対する標準添加量 % ※2		適用塗料 ※3			機能			法令		
							無機顔料	有機顔料	低極性	中極性	高極性	顔料濡れ・減粘	後添加可能	沈降防止	有機則 ※4	特化則 ※5	LFフリー
DA-1200	脂肪族多価カルボン酸	酢酸イソブチル	75	255	-	1210の環境対応品。 酸化チタン等の無機着色顔料に適した湿潤分散・沈降防止剤。	1-4	-	○	◎	○	◎	○	◎		◎	◎
DA-1831	ポリカルボン酸・アミン	PM	52	57	53	1831の環境対応品。溶剤系から水系まで使用可能。 フィラー充填量の多いプライマーにおけるハードケージ防止に優れる。	2-6	-	○	◎		○	◎	◎	◎	◎	◎
DA-703-50 ☆	高分子量ポリエステル酸アミドアミン塩	キシレン	50	8	21	高級有機顔料・カーボンブラック分散に有効。 鮮映性、着色力の向上、仕上がり塗料の色相を安定化。 DA-703-50 : 代表グレード DA-7301 : DA-703-50の環境対応品 DA-7400 : 環境対応・高固形分品。樹脂との相溶性に優れる DA-765 : 高極性樹脂(アクリルポリオール等)との相溶性に優れる	2-6	40-60	◎	◎		◎	◎				
DA-7301 ☆	高分子量ポリエステル酸アミドアミン塩	アルキルシクロヘキサ、PMA	75	11	31		1-4	25-40	◎	◎		◎	◎		◎	◎	◎
DA-7400	高分子量ポリエステル酸アミドアミン塩	PM	80	21	32		1-4	25-40	○	◎		◎	◎		◎	◎	◎
DA-765 <i>New</i>	ポリエステル変性物	アルキルシクロヘキサ、PMA	30	3	13		3-10	65-100	○	◎	○	◎	◎			◎	◎
DN-900	アクリル系重合体	PM	50	-	-	非イオン系の顔料分散・沈降防止剤。溶剤系から水系まで使用可能。 シリカ・酸化鉄・カーボンブラックの分散に適す。	2-6	-		○	◎	○			◎	◎	◎
KS-260	エステル酸・アミン・シリコーン	キシレン n-ブタノール	38	28	29	調色混合系の色分かれ防止・展色性の向上に優れた効果。 カーボンブラック調色系に効果大。	3-8	50-80	○	◎	○	◎	◎				
KS-860	エステル酸・アミン	キシレン n-ブタノール	41	30	31	KS-260 : ベナードセル・色浮き防止にも有効 KS-860 : シリコーンフリー品	3-8	50-80	○	◎	○	◎	◎				
KS-273N	エステル酸アミン塩・アクリル系重合体	キシレン	46	20	35	調色混合系の色分かれ防止・展色性の向上に優れた効果。 ページュ系の多色混合調色系に最適。	2-6	45-65	○	○	◎	◎	◎				
KS-873N	エステル酸アミン塩	キシレン	50	33	58	KS-273N : ベナードセル・色浮き防止にも有効 KS-873N : 標準品	2-6	45-65	○	○	◎	◎	◎				
PW-36	リン酸エステル系界面活性剤	キシレン	50	55	-	磁性粉・酸化鉄・アルミナ等の金属酸化物、フタロシアンプールの分散に著効。	2-6	40-60	○	○	◎	◎					
SPD-201SS	ポリエステル酸アミドアミン塩	キシレン、EPH	30	8	17	アクリルポリオール樹脂におけるカーボンブラック分散に最適。 高極性樹脂との相溶性に優れ、塗膜濁りに悪影響が少ない。	3-10	65-100	○	◎	○	◎	◎				
SPD-202SS	ポリエステル酸アミドアミン塩	キシレン、EPH	30	8	4	アクリルポリオール樹脂における有機顔料分散に最適。 高極性樹脂との相溶性に優れ、塗膜濁りに悪影響が少ない。	3-10	65-100	○	◎	○	◎	◎				

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

PM : プロピレングリコールモノメチルエーテル

PMA : プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート

EPH : エチレングリコールモノフェニルエーテル

※1 ----- 添加剤の有姿(溶剤を含んだ製品自体)での酸価・アミン価です。

※2 ----- 添加剤の有姿での添加量です。

※3 ----- 塗料極性により推奨品が異なります。詳しくは p.28 溶剤系塗料の極性をご覧ください。

※4 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ○: 有機則フリー ○: 有機則非該当(対象物質を含むが閾値未満)

※5 ----- 特定化学物質障害予防規則 ○: 特化則フリー ○: 特化則非該当(対象物質を含むが閾値未満)

水系用

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特徴	標準添加量 % ※1	適用樹脂			消泡作用		乾燥条件		法令		
						水溶性樹脂	デイスパーション	エマルジョン	抑泡	破泡	常温	焼付	有機則※3	特化則※4	フリー
AQ-501 ☆	ビニル系重合体	2-EH	85	塗料製造時の抑泡に著効。 ミルベースやメタリック塗料等、高粘度配合における泡立ち防止に優れる。	0.3-1	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
AQ-530A ☆	ビニル系重合体	炭化水素、石油ナフサ	10	工業焼付塗料における焼付乾燥時のワキ防止に著効。 スプレー塗装時のまき込み泡の減少に効果的。厚膜塗装してもワキが綺麗に消える。	1.5-2.5	◎	◎	○	◎	○	◎		◎	◎	
AQ-7533A	ビニル系重合体	炭化水素、2-EH 石油ナフサ	30	AQ-530A : 標準品 AQ-7533A : AQ-530A の特徴に加え、塗料製造時の抑泡にも有効。	1-3	○	○	◎	○	◎	○	◎		◎	◎
AQ-7552N	ビニル系重合体	炭化水素、2-EH	30	破泡効果に優れ、常温乾燥塗料の消泡および焼付塗料のワキ防止に有効。 塗料製造時の抑泡にも効果有り。	1-3	○	○	◎	○	◎	○	◎	◎	◎	◎
AQR-562 <i>New</i>	ビニル系重合体	炭化水素、エタノール	94	常温乾燥エマルジョン塗料の消泡。光沢保持および消泡持続性に優れる。 添加によりハジキが発生する場合は、ハジキ防止剤を要併用。	0.3-1.5	○	○	◎	◎	○	◎		◎	◎	◎

溶剤系用 シリコン系

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特徴	標準添加量 % ※1	適用塗料 ※2			乾燥条件		塗装方法				法令		
						低極性	中極性	高極性	常温	焼付	刷毛・ローラー	エアレス	エアスプレー	ロールコート	有機則※3	特化則※4	フリー
1930N	シリコン系	シクロヘキサノン MIBK	< 1	常乾塗料（建築塗料・床塗料）における塗装時破泡に優れる。 汎用性に富み、ハジキ等のシリコントラブルが少ない。	0.2-1	◎	○	○	◎		○	○		○			◎
1931 ☆	シリコン系	シクロヘキサノン MIBK	< 1	1930N : 消泡性に優れる 1931 : 樹脂との相溶性に優れる	0.2-1	◎	○	○	◎		○	○		○			◎
1933	シリコン系	キシレン、MIBK	1	厚膜塗料の破泡に最適。1930N/1931 に比べ消泡効果が高い。 低臭気のため屋内施工型の厚膜塗料に最適。	0.2-0.8	◎	○	○	◎		○	○		○			
1934	シリコン系	キシレン、MIBK	5	1933 の消泡効果改良品。高粘度厚膜塗料の破泡に著効。	0.2-0.8	◎	○	○	◎		◎	○		○			
1936K <i>New</i>	シリコン系	MIBK、n-ヘプタン	2	弱溶剤塗料におけるローラー塗装時の破泡性に優れる。 仕上がり光沢に優れ、美観を求めるトップコートに最適	0.2-1	◎	○	○	◎		◎	○		○	◎		◎
SPX-44	シリコン系	酢酸エチル	1	1930N/1931 の環境対応品。 汎用性に富み、ハジキ等のシリコントラブルが少ない。	0.2-1	◎	○	○	◎		○	○		○		◎	◎

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆ のついた品番からお試してください。

2-EH : 2-エチルヘキサノール

MIBK : メチルイソブチルケトン

ワキ : 焼付乾燥時に発生する気泡痕

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- 塗料極性により推奨品が異なります。詳しくは p.28 溶剤系塗料の極性をご覧ください。

※3 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ◎ : 有機則フリー ○ : 有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※4 ----- 特定化学物質障害予防規則 ◎ : 特化則フリー ○ : 特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

溶剤系用 ポリマー系

品名	主成分			主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1	適用塗料 ※2			乾燥条件		塗装方法				法令			
	シリコン	アクリル	ビニル					低極性	中極性	高極性	常温	焼付	刷毛・ローラー	エアレス	エアスプレー	ロールコート	有機則 ※3	特化則 ※4	コメフリー	
1922A			○	キシレン、酢酸エチル 酢酸ブチル	35	木部・コンクリート素地への濡れを促進し、導管・細孔の空気を置換破泡。 木工塗料・防水材の抑泡に適す。素地に対する目止め効果を改善。	0.2-0.8	◎	○		○	○	○	○	○	○				
1928			○	イソパラフィン混合物	15		0.2-1	◎	○		○	○	○	○	○	○	◎	◎	◎	
1952			○	キシレン、n-ブタノール	7	弱溶剤塗料ローラー塗装時の消泡性に優れる。 リコート性に悪影響が少なく下塗り塗料にも使用可。	0.2-1	◎			◎		◎	◎						
1958			○	ターペン	20	1952 に比べ塗料との相溶性に優れる。	0.2-1	◎	○		◎		◎	◎				◎		
FA-62	○	○		キシレン、トルエン ターペン	35	エアレス・ローラー塗装時の初期破泡性に優れる。 OX-66 に比べてハジキ等のシリコントラブルが少ない。	0.2-1	◎			◎		◎	◎						
LAP-10A ☆		○	○	石油ナフサ、酢酸ブチル	20	焼付塗料のワキ防止剤。焼付後の塗膜平滑性に優れる。 塗料サーキュレーション時に分離凝集が少なく安定した効果を発揮。 LAP-10A : 標準品。常乾塗料の消泡にも適す LAP-20 : LAP-10A に比べ樹脂との相溶性に優れる LAP-30 : 樹脂固形分の高いハインソリッド焼付塗料に適す	0.3-2		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎		◎		
LAP-20		○		酢酸ブチル	20		0.3-2			○	◎	◎	◎	◎		◎	◎		◎	◎
LAP-30		○		酢酸ブチル	20		0.3-2				◎		◎	◎		◎	◎		◎	◎
OX-60		○		キシレン	50	工業用焼付塗料の脱泡性を改善しワキを防止。 厚膜塗装が可能になり、塗装作業を効率化。	0.2-0.8			○	◎	○	◎		○	○				
OX-6140		○		酢酸ブチル	30	工業用焼付クリアー塗料に最適な反応型消泡剤。ハインソリッド焼付塗料に適す。 塗膜の白濁や没水時の白化減少を大幅に改善。	0.2-2				◎				◎	○		◎	◎	
OX-66/66EF	○	○		キシレン、トルエン/ アルキルシクロヘキサン	40	エアレス・ローラー塗装時の初期破泡性に優れる。 夏・冬など泡の問題が起こりやすい季節でも安定した効果を発揮。	0.2-1	◎			◎		◎	◎			-/◎	-/◎	-/◎	
OX-70		○		ターペン、トルエン	30	常温乾燥塗料の消泡・焼付塗料のワキ防止。 攪拌時の抑泡・脱泡性に優れる。	0.2-1	◎	○		◎	○	◎	○				◎		
OX-77/77EF		○		ターペン、トルエン/ アルキルシクロヘキサン	30/40	OX-70 : 標準品 OX-77 (EF) : OX-70 の低温析出改良品 (環境対応品)	0.2-1	◎	○		◎	○	◎	○			-/◎	◎	-/◎	
OX-710		○		キシレン	50	常温乾燥 厚膜塗料の破泡・抑泡性を改良。特に高粘度塗料に適す。 OX-710 : 床・防水材の消泡に適す。焼付塗料のワキ防止にも有効 OX-715 : OX-710 に比べ破泡性に優れる OX-720 : 強溶剤・弱溶剤系の建築厚膜塗料に適す	0.2-0.8			○	◎	○	◎	○	○					
OX-715	○	○		キシレン、MIBK	20	0.2-0.8			○	◎	◎		◎	○						
OX-720		○		キシレン、トルエン	50	0.2-0.8	◎			◎		◎	◎							

品名	主成分			主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1	適用塗料 ※2			乾燥条件		塗装方法				法令		
	シリコン	アクリル	ビニル					低極性	中極性	高極性	常温	焼付	刷毛・ローラー	エアレス	エアスプレー	ロールコート	有機則 ※3	特化則 ※4	MFフリー
OX-750/750HF		○		キシレン、トルエン / 石油ナフサ	10	工業用メラミン塗料の焼付時、厚膜部分で発生するワキ防止に著効。厚膜塗装が可能になり、塗装作業を効率化。	0.5-1.5	○	◎		○	○	○	○	○			-/◎	
OX-760		○		キシレン、トルエン	25	OX-750 (HF) : 標準品 (HAPS フリー品) OX-760 : OX-750(HF) に比べ強力なワキ防止効果	0.2-1	○	◎		○	○	○	○	○				
OX-88M		○		ターペン、トルエン	30	常温乾燥塗料の抑泡から焼付塗装時ワキ防止まで、広範な配合で効果を発揮。特にウレタンやエポキシ樹脂系に適す。	0.2-1	◎	○		◎		○	○		○		◎	
OX-880/880EF ☆		○		トルエン / 酢酸ブチル	30/50	OX-880 (EF) : 代表グレード (環境対応品) OX-88M : 弱溶剤配合向け	0.2-1	◎	○		◎	○	◎	◎				◎	-/◎
OX-881		○		石油ナフサ、キシレン	30	工業用アクリル、ポリエステルメラミンの焼付時のワキ防止に最適。塗料のサーキュレーション時に分離凝集が少なく、安定した効果を発揮。	0.2-1		○	◎		◎			○	○			
OX-883/883HF		○		キシレン / 石油ナフサ	30	OX-880 に比べサーキュレーション時の分離凝集を低減。攪拌時の抑泡に優れる。OX-883HF は HAPS フリー品。	0.2-1		◎	○		○	◎		○	○			-/◎
P-410EF			○	アルキルシクロヘキサン 酢酸ブチル	50	木工用不飽和ポリエステル塗料の脱泡、レベリング改良に著効。エポキシ樹脂系でも効果有。	0.2-1			◎		○		○	○	○	○	◎	◎
P-420			○	ターペン	50	床材・防水材など高粘度配合の脱泡・破泡に著効。塗装条件や季節変化に依らず安定した効果を発揮。	0.2-1			◎	○	○		○	○				◎
P-425			○	ターペン	50	細かな泡の結合後の大きな泡の破泡性に優れる。 P-450N : 代表グレード	0.2-1			◎	○	○		○	○				◎
P-450N ☆			○	イソパラフィン混合物	50	P-420 : 弱溶剤配合に適す P-425 : P-420/450 に比べ破泡効果が優れる	0.2-1			◎	○	○		○	○			◎	◎
P-465			○	イソパラフィン混合物	40	無溶剤エポキシ床塗料の消泡に適する。冬場の高粘度状態やアミン硬化剤種類に依らず安定した破泡効果を示す。	0.2-1				◎	○		○	○		○	◎	◎
P-466			○	イソパラフィン混合物	40	広範な床塗料・防水材で効果を発揮。特にウレタン防水材の消泡に適する。	0.2-1			○	◎	○		○	○		○	◎	◎
P-467			○	イソパラフィン混合物	80	水性硬質ウレタンの消泡に適する。硬化後の仕上がりが外観に優れる。	0.2-1			◎	○	○		○	○		○	◎	◎
PD-7			○	石油ナフサ	50	不飽和ポリエステル樹脂 (ゲルコート・FRP・木工塗料) 用消泡剤。	0.1-1				◎	○		○	○			◎	
UVX-172			○	-	100	UV 塗料の攪拌時、強制乾燥時および塗布時の抑泡・脱泡に有効。樹脂の透明性に悪影響が少ない。	0.1-2				◎	○			○	◎	◎	◎	◎
UVX-188			○	-	100	UVX-172 : 極性の高いカチオン UV 硬化樹脂やエポキシアクリレートに適す UVX-188 : 樹脂との相溶性に優れ、広範な配合で効果を発揮	0.2-1			○	◎	○			○	◎	◎	◎	◎
UVX-189			○	-	100	UVX-189 : 高い消泡効果。特にウレタンアクリレートに適す	0.2-1			◎	○	○			○	◎	◎	◎	◎

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆ のついた品番からお試しください。

MIBK : メチルイソブチルケトン

ワキ : 焼付乾燥時に発生する気泡痕

※1 ---- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ---- 塗料極性により推奨品が異なります。詳しくは p.28 溶剤系塗料の極性をご覧ください。

※3 ---- 有機溶剤中毒予防規則 ◎ : 有機則フリー ○ : 有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※4 ---- 特定化学物質障害予防規則 ◎ : 特化則フリー ○ : 特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

水系用

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特徴	標準添加量 % ※1	表面張力低下能	適用樹脂			機能				備考	
							水溶性樹脂	ディスパーション	エマルジョン	下地への濡れ性	レベリング性	スリップ性	リコート性	有機則※2	有機溶剤フリー
AQ-7120 ☆	アクリルシリコン系重合体	2-EH	30	下地への濡れ性およびハジキ防止性を向上。リコート性に悪影響が少ない。メタリック顔料の配向性改良剤としてもはたらく。	0.5-1.5	中	◎	◎	○	◎	○	○	○	◎	
AQ-7180	アクリルシリコン系重合体	2-EH	30	AQ-7120：標準品 AQ-7180：AQ-7120 に比べ共溶剤含有量の少ない塗料系に適合	0.5-1.5	中	○	◎	◎	◎	○	○	○	◎	
LS-009	シリコン系	IPA	10	下地への濡れ性およびハジキ防止性を向上。水系から溶剤系まで使用可能。リコート性、スプレー霧化時の自己ハジキに悪影響が少ない。	0.2-1	高	○	○	○	○	○	○	○		
LS-430	シリコン系	PMA	50	下地への濡れ性およびハジキ防止性を改善。リコート性に悪影響が少ない。水との親和性に優れ、共溶剤含有量の少ない水系塗料に最適。	0.03-1	中	○	○	◎	○	○	○	○	◎	
LS-460 ☆	シリコン系	-	100	下地への濡れ性およびハジキ防止性を向上。水系から溶剤系まで使用可能。活性度の低い表面調整剤で塗膜の伸びに悪影響が少ない。	0.03-1	高	◎	◎	◎	◎	○	○		◎	◎
LS-480	シリコン系	-	100	高いハジキ防止効果とレベリング性。水系から溶剤系まで使用可能。	0.03-1	高	◎	◎	○	◎	○	◎		◎	◎
SEI-W01 <i>New</i>	アクリル系重合体	-	100	塗膜の表面エネルギーを増大させ、レベリング性、リコート性を向上。重ね塗り時の濡れ性・密着性を付与。水系塗料から無溶剤エポキシ・UV 塗料に適合。	0.1-3	低	○	○	○	○	○		◎	◎	◎

☆：代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

2-EH：2-エチルヘキサノール

IPA：イソプロパノール

PMA：プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ◎：有機則フリー ○：有機則非該当（対象物質を含むが閾値未満）

溶剤系用 シリコン系

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※1	表面張力低下能 ※2	適用塗料 ※3			機能					法令			
							溶剤系			水系	下地への濡れ性	レベリング性	ベナードセル防止	スリップ性	リコート性	有機則 ※4	特化則 ※5	フrees
							低極性	中極性	高極性									
1711	シリコン系	キシレン	50	下地への濡れ性を付与、塗膜乾燥過程のベナードセルを防止。 樹脂との相溶性が高く塗膜の伸びに悪影響が少ない。	0.1-0.5	高	○	○	◎		○	◎	◎	○	○			
1711EF ☆	シリコン系	酢酸ブチル	50	1711：強溶剤品 1711EF：環境対応品	0.1-0.5	高	○	○	◎		○	◎	◎	○	○		◎	◎
1761	シリコン系	キシレン	50	スリップ性を付与することで塗膜表面の擦り傷を防止。 耐ブロッキング性を改良。レベリングの改良と共に光沢保持性に優れる。	0.1-0.5	高	○	◎	○		◎	○	◎	◎				
LS-009	シリコン系	IPA	10	下地への濡れ性およびハジキ防止性を向上。溶剤系から水系まで使用可能。 スプレー霧化時の自己ハジキに悪影響が少ない。	0.2-1	高			◎	○	○	○	◎	○	○		◎	◎
LS-280	シリコン系	酢酸ブチル	10	OH基を持つ反応性シリコン。表面張力を大幅に低下させスリップ性・汚れ防止性を付与。 イソシアネート硬化塗料、メラミン硬化塗料と反応可。	0.1-1	高	◎	◎	○		◎	○	◎	◎			◎	◎
LS-430	シリコン系	PMA	50	下地への濡れ性およびハジキ防止性を改善。リコート性に悪影響が少ない。 水との親和性に優れ、共溶剤含有量の少ない水系塗料に最適。	0.03-1	中			◎	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎
LS-460	シリコン系	-	100	下地への濡れ性およびハジキ防止性を向上。溶剤系から水系まで使用可能。 活性度の低い表面調整剤で塗膜の伸びに悪影響が少ない。	0.03-1	高	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	○		◎	◎	◎
LS-480 ☆	シリコン系	-	100	高いハジキ防止効果とレベリング性を付与。溶剤系から水系まで使用可能。	0.03-1	高	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
SPL-92 <i>New</i>	シリコン系	石油ナフサ EPH	10	表面張力を大幅に低下することでスリップ性を付与し、耐擦り傷性と汚れ防止性を改善。 塗料の選択性が少なく、広範な配合で効果を発揮。	0.1-1	高	◎	◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	
SPL-93 <i>New</i>	シリコン系	キシレン	15	表面張力を大幅に低下することでスリップ性を付与し、耐擦り傷性と汚れ防止性を改善。 プラスチック、木工、自動車補修塗料に最適。	0.2-2	高	◎	◎	○		◎	○	◎	◎				
SPL-94 <i>New</i>	シリコン系	キシレン	15	下地への濡れ性およびハジキ防止性を向上。塗膜の伸びに悪影響が少ない。 LS-460に比べて低粘度の為、ハンドリング・分散性に優れる。	0.2-2	中	○	◎	◎		◎	○	◎	○				

☆：代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試しください。

PM：プロピレングリコールモノメチルエーテルアセテート

IPA：イソプロパノール

EPH：エチレングリコールモノフェニルエーテル

※1 ----- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※2 ----- シリコン系表面調整剤における分類です。

※3 ----- 塗料極性により推奨品が異なります。詳しくは p.28 溶剤系塗料の極性をご覧ください。

※4 ----- 有機溶剤中毒予防規則 ○：有機則フリー ○：有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※5 ----- 特定化学物質障害予防規則 ◎：特化則フリー ○：特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

溶剤系用 ポリマー系

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特徴	標準添加量 % ※1	表面張力低下能 ※2	適用塗料 ※3			水系	機能				法令			
							溶剤系				下地への濡れ性	レベリング性	ベナードセル防止	消泡・脱泡性	リコート性	有機則 ※4	特化則 ※5	JISフリー
							低極性	中極性	高極性									
230/230EF	アクリル系重合体	キシレン/酢酸ブチル	40	表面調整、塗膜欠陥防止、色分かれ防止。ハジキ・ピンホールを防止。泡消え跡がない平滑な塗膜が得られる。230EFは環境対応品。	0.2-1	低	◎	○	消泡		○	○	○	○		-/◎	-/◎	
1970	アクリル系重合体	キシレンターペン	40	メラミン、不飽和ポリエステル、エポキシ塗料のレベリング・消泡剤。ハジキ・ピンホールを防止、泡消え跡がない平滑な塗膜が得られる。	0.2-1	低	◎	○	消泡		○	○	○	○				
AQ-7120	アクリルシリコーン系重合体	2-EH	30	素地に対する濡れ性を改善。リコート性に悪影響が少ない。メタリック顔料の配向性改良剤としてもはたらく。	0.5-1.5	中			◎	○	◎	◎	◎		◎	◎	◎	
AQ-7180	アクリルシリコーン系重合体	2-EH	30	AQ-7120：標準品 AQ-7180：AQ-7120に比べ共溶剤含有量の少ない塗料系に適す。	0.5-1.5	中			◎	○	◎	◎	◎		◎	◎	◎	
LF-1980	アクリル系重合体	酢酸ブチル	50	常温乾燥および焼付塗料のレベリング・ハジキを改良。樹脂との相溶性が高く、リコート性に悪影響が少ない。シリーズ内で塗料との相性を微調整しており、最適な品番が選択可能。 LF-1982/83：低-中極性樹脂の表面調整 LF-1980/84：中-高極性樹脂の表面調整 LF-1985：樹脂固形分の高いハイソリッド焼付塗料に適す	0.2-1	低		○	○			○	○			◎	◎	
LF-1982	アクリル系重合体	酢酸ブチル	50		0.2-1	低	◎	○	消泡			○	○	○			◎	◎
LF-1983	アクリル系重合体	酢酸ブチル	50		0.2-1	低		○	消泡			○	○	○			◎	◎
LF-1984 ☆	アクリル系重合体	酢酸ブチル	50		0.2-1	低	○	◎	○			◎	◎				◎	◎
LF-1985	アクリル系重合体	酢酸ブチル	50		0.2-1	低		○	◎			○	○				◎	◎
LHP-90	ビニル系重合体	石油ナフサ	50		被塗物に対する濡れが非常に良好で、塗膜のフロー性・レベリングに優れる。油汚れのハジキ防止、プラスチック基材への濡れ性付与に著効。	0.2-0.5	中	○	◎	○		◎	◎	◎			◎	
LHP-91 ☆	ビニル系重合体・シリコーン	石油ナフサ	50	ハジキ防止効果：91 > 90 > 96 > 95 リコート性：95 > 96 > 90 > 91	0.2-0.5	中	○	◎	○		◎	◎	◎			◎		
LHP-95	アクリル系重合体	石油ナフサ	50	LHP-90：優れたハジキ防止効果。プライマーにも使用可能 LHP-91：卓越した塗膜仕上がりに外観。鮮鋭性の求められるトップコートに最適	0.2-0.5	中	○	◎	○		○	◎	◎			◎		
LHP-96	アクリル系重合体・シリコーン	石油ナフサ	50	LHP-95：リコート性に特に優れる LHP-96：ハジキ防止効果とリコート性のバランスが良好	0.2-0.5	中	○	◎	○		○	◎	◎			◎		
LHP-810	アクリルシリコーン系重合体	酢酸ブチル	10	薄膜塗装においてもハジキが少なく、塗膜の伸び、リコート性に悪影響が少ない。高光沢で透明性の高い塗膜が得られる。	0.5-2	中		○	◎		◎	○	○			◎	◎	
NSF-8363	アクリルシリコーン系重合体	石油ナフサトルエン	10	フロー性・塗膜鮮映性を向上。塗膜硬度を落とさずハードコート塗料に最適。UV塗料のレベリング性改善にも有効。	0.5-2	高	○	◎			◎	◎	◎			◎		
NSH-8430HF	アクリルシリコーン系重合体	酢酸ブチル石油ナフサ	10	NSF-8363：ハジキ防止効果が強い NSH-8430HF：塗膜のリコート性に悪影響が少ない	0.5-2	中	○	◎			◎	○	○			◎		

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特 徴	標準添加量 % ※ 1	表面張力低下能 ※ 2	適用塗料 ※ 3			機能					法令			
							溶剤系			水系	下地への濡れ性	レベリング性	ベナードセル防止	消泡・脱泡性	リコート性	有機則 ※ 4	特化則 ※ 5	MFフリー
							低極性	中極性	高極性									
SEI-1501 <i>New</i>	アクリル系重合物	-	100	塗膜の表面エネルギーを増大させ、レベリング性、リコート性を向上。重ね塗り時の濡れ性・密着性を付与。溶剤系塗料に適す。	0.1-3	低		○	◎			○	○		◎	◎	◎	
SEI-W01 <i>New</i>	アクリル系重合物	-	100	塗膜の表面エネルギーを増大させ、レベリング性、リコート性を向上。重ね塗り時の濡れ性・密着性を付与。水系塗料・無溶剤エポキシ・UV 塗料に適す。	0.1-3	低		○	◎	○	○	○		◎	◎	◎	◎	
SPL-85 <i>New</i>	アクリル系重合物	石油ナフサ	50	ウレタン樹脂との相溶性が高く、添加後の透明性に悪影響が少ない。シリコン系レベリング剤との併用で優れたレベリング効果を発揮。	0.1-0.5	低		○	◎			○	○			◎		
UVX-36	アクリル系重合物	-	100	UV 樹脂の平滑性・鮮鋭性付与に優れる。塗膜濁りに悪影響が少なくクリアー塗料に推奨。リコート性に悪影響が少ない。	0.1-2	低			◎			○	○		◎	◎	◎	
UVX-2285	アクリルシリコン系重合物	酢酸ブチル	50	表面張力を大幅に低下させ、下地への濡れ性を向上。高光沢で透明性の高い塗膜。油汚れのハジキ防止、プラスチック基材への濡れ性付与。	0.1-2	高		○	◎		◎	○	○			◎	◎	

粉体塗料用

品名	主成分	外観	有効成分 %	特 徴	標準添加量 %
PL-545	アクリル系重合物・水添ひまし油	粉末	100	焼付時のフロー性向上、美しい平滑性が得られる。薄膜化・被塗物に対する濡れに寄与。	1-3
PL-550A	アクリル系重合物・水添ひまし油	粉末	100	PL-545 : 表面張力低下能が高い PL-550A : 樹脂との相溶性に優れる	1-3

☆ : 代表品番。選定が難しい場合 ☆のついた品番からお試ください。

2-EH : 2-エチルヘキサノール

LF-1980 シリーズには「無溶剤品」及び「トルエン希釈品」ラインナップがございます。(無溶剤品は LF-1985 除く)

※ 1 ---- 添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

※ 2 ---- ポリマー系表面調整剤における分類です。

※ 3 ---- 塗料極性により推奨品が異なります。詳しくは p.28 溶剤系塗料の極性をご覧ください。

※ 4 ---- 有機溶剤中毒予防規則 ◎: 有機則フリー ○: 有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※ 5 ---- 特定化学物質障害予防規則 ◎: 特化則フリー ○: 特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

静電助剤

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	酸価	アミン価	特徴	標準添加量% ※1	有機則 ※2	特化則 ※3	フリー
1121	アルコキシアミン塩	PM	80	130	100	塗料の電気抵抗値を改善し、導電性を向上。静電塗装時の微粒化を促進し、塗着効率・付き回り性を大幅に改良。	0.2-0.8	◎	◎	◎

皮張り防止剤

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特徴	標準添加量% ※1	有機則 ※2	特化則 ※3	フリー
503	フェノール系	ターペン	40	溶剤系アルキッド樹脂の皮張り・ゲル化防止に最適。酸化防止機能を有する。特に支那桐油系ワニスにおいて著効。	0.2-0.5		◎	

アミンブラッシング防止剤

品名	主成分	主溶剤	有効成分 %	特徴	標準添加量% ※1	有機則 ※2	特化則 ※3	フリー
APA-100	アクリル系重合体	酢酸ブチル	50	プライマーやベースコートに添加することで、上塗り不良・密着不良を防ぐ。 エポキシ下塗り塗料の低温 / 高湿度環境における硬化時に発生するアミンブラッシングを防止。	0.3-1		◎	◎

※1 -----添加剤の有姿での塗料全体に対する添加量です。

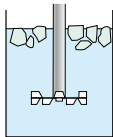
※2 -----有機溶剤中毒予防規則 ◎：有機則フリー ○：有機則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

※3 -----特定化学物質障害予防規則 ◎：特化則フリー ○：特化則非該当 (対象物質を含むが閾値未満)

技術資料

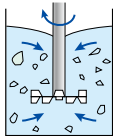
ポリアמיד系チクソ剤は低増粘 / 高チクソ型のレオロジーコントロール剤です。
ダレ止め、顔料沈降防止、メタリック顔料の配向性改良に効果を発揮します。

分散手順：ディスパー分散



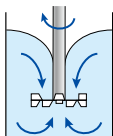
ポリアミドの添加

塗料製造時の最終段階で添加してください。
大きな塊で投入せず、1cm 角程度に小さくして添加します。
添加後すぐに予備分散を開始してください。



予備分散 1000~1500rpm 2-3min

羽根の位置・高さを動かしながら、大きな塊を均一にほぐします。
大きな塊が無くなり増粘してきたら、本分散に進んでください。



本分散 2000rpm 10min

軸を中心に固定し、所定の回転数で本分散を行います。
全体が均一に混ざるようにディスパー羽根の高さを調整してください。
その際、泡が入らないように注意します。
分散完了後、粘度・粒子度測定は翌日以降に行ってください。

イメージ図

分散機：ディスパー
容器φ60~80mm
羽根φ40~50mm

*上記分散条件はラボサイズでの試験を想定しています。
実機製造では羽根サイズや分散能力の違いにより最適な分散条件が異なります。

マスターバッチ（ブレゲル）の作製

十分な剪断がかけられない場合、マスターバッチを作製いただくことで
添加剤本来の性能を発揮することが可能です。

配合例

配合	配合比
水	85
ポリアמיד AQ-600 (固形分 20%)	15

*分散手順は塗料への分散と同様



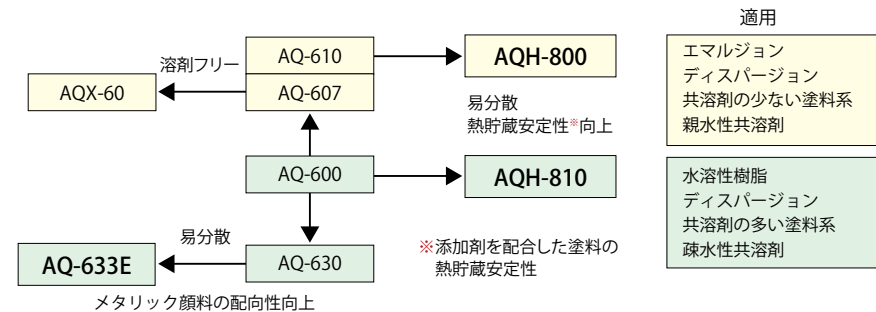
AQ-600



マスターバッチ

*AQH-800、AQH-810、AQ-633Eは直接添加できるグレードですが塗料へ分散しづらい場合は、
同様にマスターバッチを作製し添加してください。

最適品番の選択



共溶剤の影響

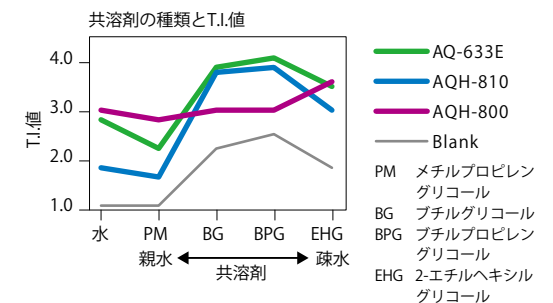
塗料に含まれる共溶剤の種類・量の影響を受けやすい為、
複数品番をご試験頂きお使いの塗料に適した品番を選定してください。

配合例：共溶剤含有量 30phr

樹脂 NeoCryl A-639	76
水	14
共溶剤 or 水	10
中和アミン (pH=8) *1	X
ポリアמיד系チクソ剤 *2	Y
	100+X+Y

*1 ジメチルエタノールアミン

*2 添加量：0.4% (有効成分)



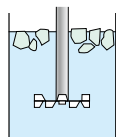
使用上の注意点

- 40℃以下で保管し、加熱しないでください。品質が低下し本来の効果が出ないことがあります。
添加後の塗料につきましてもこの温度を超えないよう保管してください。
- ポリアמיד系チクソ剤は塩基性環境下で効果を示します。pH8.0以上でご使用ください。
- 低増粘タイプであるため、求める粘性によっては他増粘剤との併用や顔料濃度調整をご検討ください。



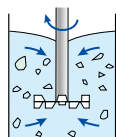
アמידペーストは有機アמיד系の代表的なチクソトロピック剤です。
塗料等の樹脂中に分散することで増粘・ダレ止め・顔料沈降防止に効果を発揮します。

分散手順：ディスパー分散



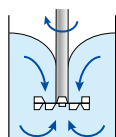
アמידペーストの添加

大きな塊で投入せず、1cm 角程度に細かくして添加します。
製品缶の壁面・蓋に付着した乾燥物は粗大粒子の原因となりますので
取り除いてからご使用ください。



予備分散 500~1500rpm 2-3min

羽根の位置・高さを動かしながら、大きな塊を均一にほぐします。
大きな塊が無くなり増粘してきたら、本分散に進んでください。



本分散 2000~3000rpm 10-30min

軸を中心に固定し、所定の回転数で本分散を行います。
全体が均一に混ざるようにディスパー羽根の高さを調整してください。
その際、泡が入らないように注意します。
最後に粒ゲージで粒子度を測り、目標粒子径に収まることを確認してください。

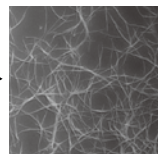
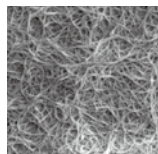
イメージ図
分散機：ディスパー
容器φ60~80mm
羽根φ40~50mm

*上記分散条件はラボサイズでの試験を想定しています。
実機製造では羽根サイズや分散能力の違いにより最適な分散条件が異なります。

最適な分散時間

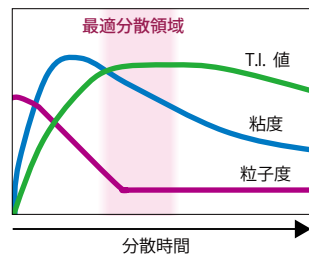
アמידペースト

SEM 写真



分散前

分散後



アמידペーストは塗料中に分散することで針状結晶が広がりチクソ性を付与します。
過度の分散は効果を低下させるため、適度な分散時間としてください。

マスターバッチ (プレゲル) 作製

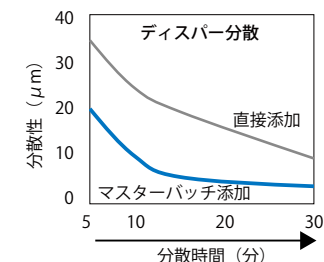
アמידペーストの分散性が悪い場合、
マスターバッチの作製によりスムーズな添加が可能です。

配合例

配合	配合比
樹脂・溶剤	85
アמידペースト 6900-20X (固形分 20%)	15

*分散手順は塗料への分散と同様

溶剤単独のマスターバッチは分散性・安定性が良くない為、樹脂併用でのマスターバッチ化が推奨です。



使用上の注意点



温度管理

アמידペーストの針状結晶構造は高温で溶解・失効します。一度溶解したアמידは増粘・チクソ性付与効果がなくなり、溶解物は冷却時に粗大粒子として析出し塗膜平滑性へ悪影響を及ぼします。

分散温度

常温から 50℃程度まで可能です。極性溶剤（アルコール等）の多い配合系では溶解温度が低くなる為、上記温度範囲内であっても十分にご注意ください。

冬期の分散不良

冬場など寒冷期を経たアמידペーストを塗料中に分散した場合、白色球状粒子が残ることがあります。この場合、容器ごと 35-40℃で 1-2 日、缶内部まで十分に暖めてからご使用ください。

リコート性

アמידワックスは表面張力が低い為、焼付乾燥等でアמידが完全溶解すると塗膜表面に配向してハジキの発生やリコート性を阻害することがあります。本現象は樹脂との相溶性が悪い場合に起こり特にアルキッドメラミン樹脂塗料において発生しやすい傾向があります。

製品の仕込み・保管方法

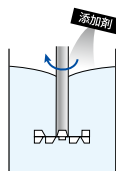
石油缶から製品を取り出す際は、石油缶の天面を缶切りで開封してください。ペースト加熱による流動化の性質はなく、かえって品質を劣化させます。冬期の分散不良対策以外の加熱は避けてください。

乾燥物

アמידペースト中の溶剤成分が揮発し、乾燥物となることがあります。この乾燥物は分散性が悪くブツの原因となりますので、取り除いてからご使用ください。

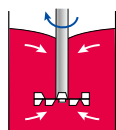
粉末チクソトロピック剤は有効成分 100% から成る増粘・ダレ止め・沈降防止剤です。
樹脂中で加温分散することで活性化し、増粘・ダレ止めに優れた効果を発揮します。

分散手順：加温分散



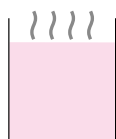
添加剤添加 1000rpm 1-3min

塗料中に攪拌しながら添加剤を投入してください。
添加時に液温が 40℃ 以上の場合、分散不良になることがある為ご注意ください。



本分散 2000~3000rpm 各設定温度・時間

ヒーター・湯浴により、所定の温度まで液を昇温します。
各条件（温度、時間）のもと本分散を行ってください。



冷却工程

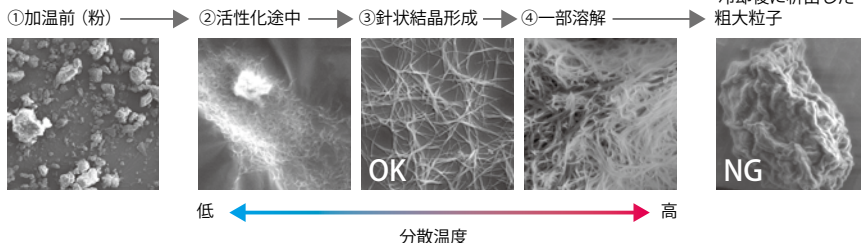
本分散完了後、常温で静置したまま室温まで冷却してください。
攪拌冷却はチクソ性を損なう為避けてください。

イメージ図
分散機：ディスパー
容器φ60~80mm
羽根φ40~50mm

*上記分散条件はラボサイズでの試験を想定しています。
実機製造では羽根サイズや分散能力の違いにより最適な分散条件が異なります。

加温分散による活性化

SEM 写真



*過度な加温では針状結晶が一部溶解し（写真④）さらに高温で完全溶解するとチクソ性付与効果が失効します。
溶解した成分は冷却時に析出、粗大粒子が発生（写真⑤）する為、過度の加温は避けてください。

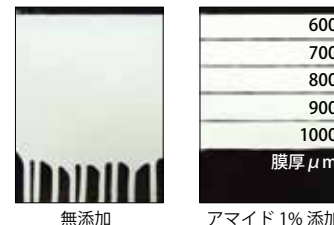
配合例 溶剤系エポキシ塗料

主剤	配合比
エポキシ樹脂 (jER 1001)	30
キシレン	20
イソブタノール	5
タルク	25
シリカ	15
酸化鉄	5
粉アמיד	1
	101

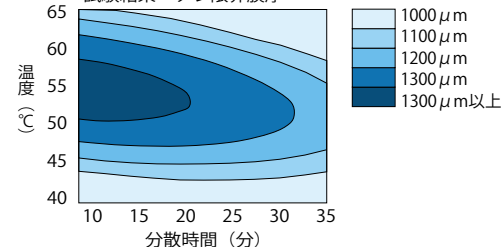
硬化剤	配合比
エポキシ硬化剤	17

分散条件：各温度・時間
回転数：2000rpm ディスパー 40mmφ
加温分散後、常温で 1 日冷却
硬化剤混合後、2000mPa・s に粘度調整しダレ限界膜厚を測定
希釈溶剤：XL/MIBK/BuOH=4/2/1

ダレ止め試験



試験結果：ダレ限界膜厚



溶剤種の影響

粉末チクソ剤は溶剤種により活性化が大きく左右されます。
溶解温度の低い溶剤ほど、低温域での活性化が可能です。
冬場など十分に加温できない場合、配合中に BuOH・IPA を
1-2% 加えることにより膨潤促進が可能です。

各種溶剤に対する溶解性

ディスパロン 6650	溶解温度 ℃
ターペン	114
キシレン	92
酢酸ブチル	90
MIBK	83
BuOH	63
IPA	62
キシレン/BuOH=8/2	64

使用上の注意点

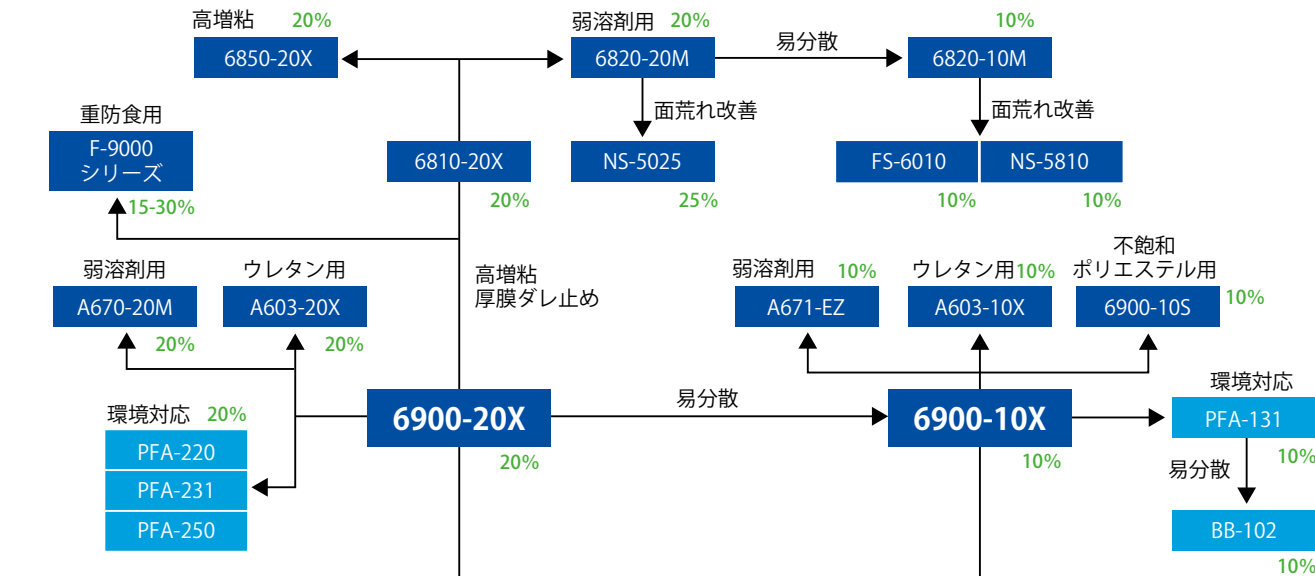
- 粉末チクソ剤に直接溶剤をかけないでください、ブツの原因になります。
- 粉末チクソ剤のみを加熱しても活性化しません。必ず塗料や樹脂溶液中で加温分散してください。
- 活性化後は極力剪断をかけないでください、過度の分散は効果を低下させます。
- 加温分散温度・時間は配合により異なる為、ご使用に際しては十分な検証試験をお願いします。



TX・弱溶剤 環境対応 粉末

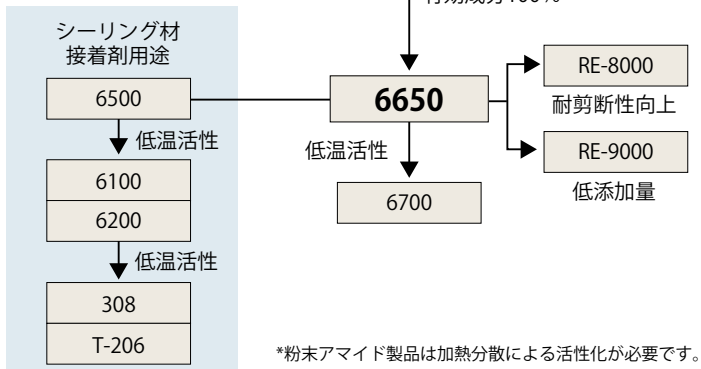
アマイドペースト (増粘・ダレ止め・沈降防止)

有効成分7-30%

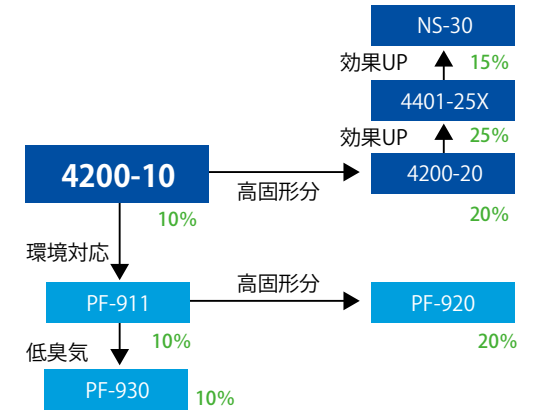


粉末アマイド*

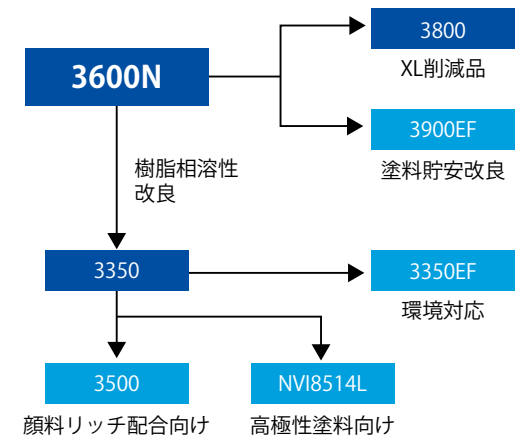
有効成分100%



ポリエチレンペースト (沈降防止)



液状品 (ダレ止め・沈降防止)*



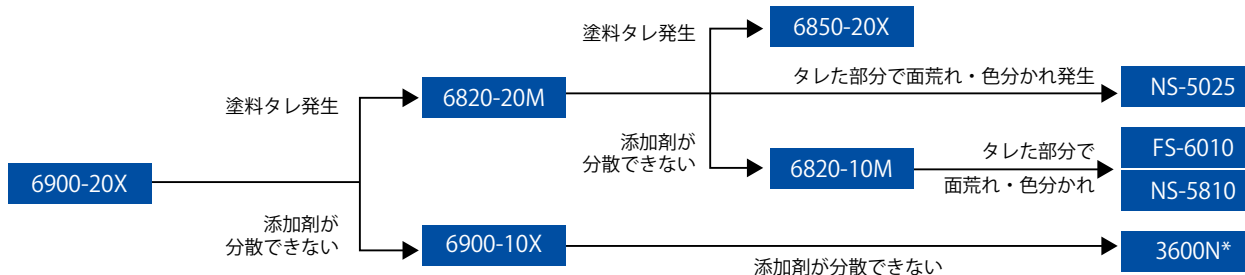
*液状品の効果は顔料種類・濃度・樹脂系に依ります。

解決したい現象によりお選びください。

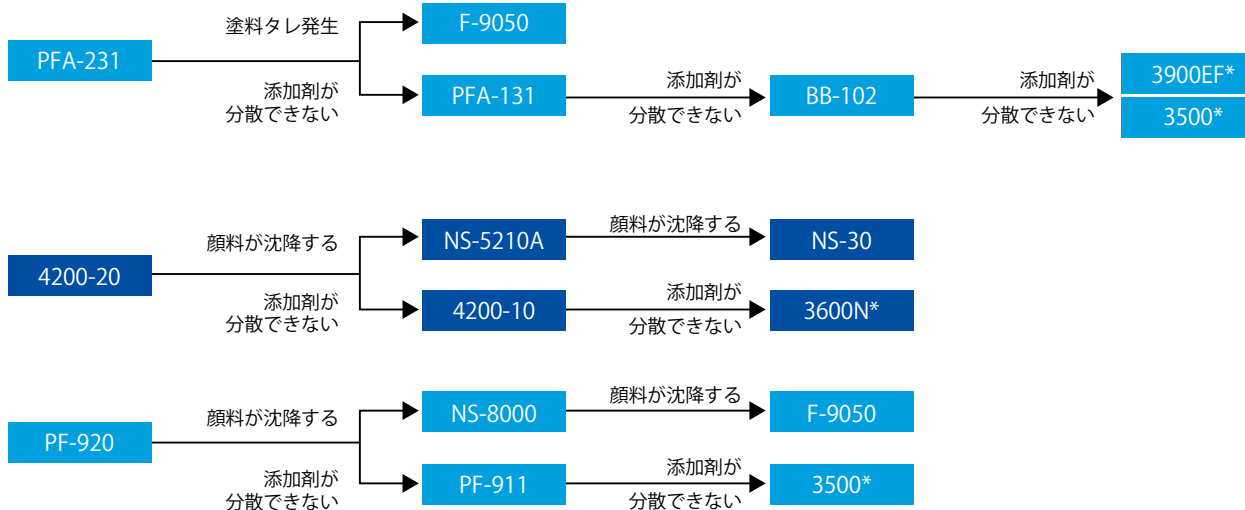
TX・弱溶剤

環境対応

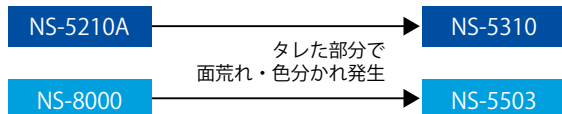
塗料の ダレ止め



顔料の 沈降防止



光輝顔料・艶消し剤の 配向性改良



採用実績

建築塗料



6820-10M

自動車塗料



6900-20X

4200-10

木工塗料



PFA-231

床・防水材料



PF-911

3600N

接着剤・シーリング材



308
6500

工業塗料



6900-20X
4200-10

防食塗料



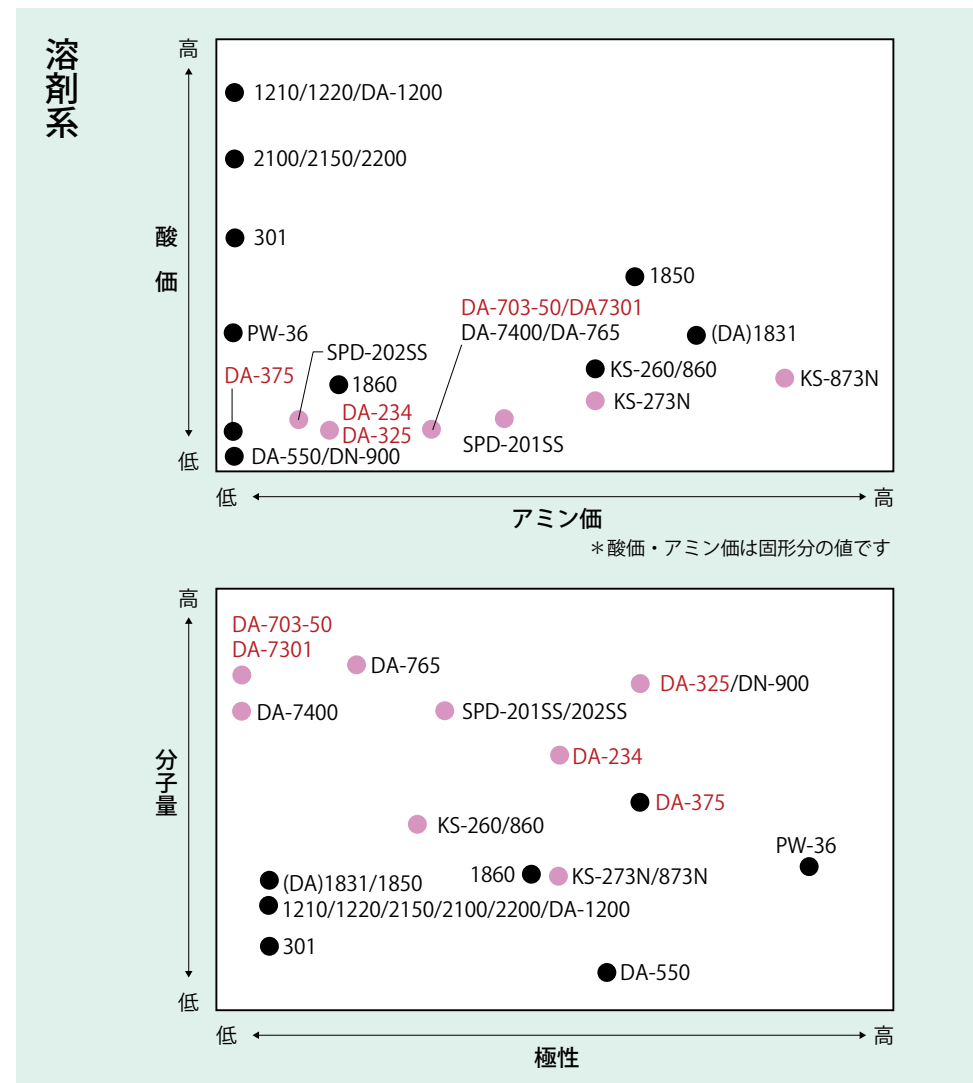
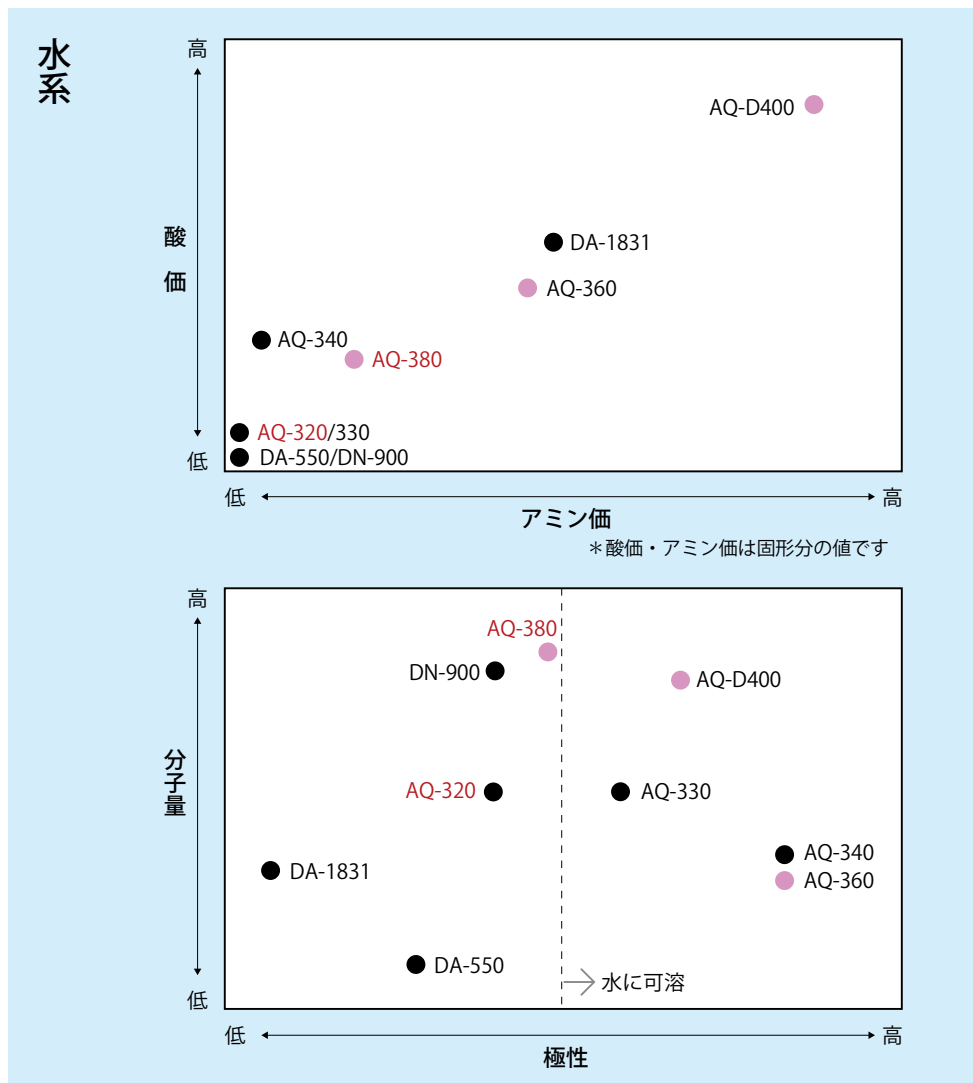
6820-10M
F-9000シリーズ

船舶塗料



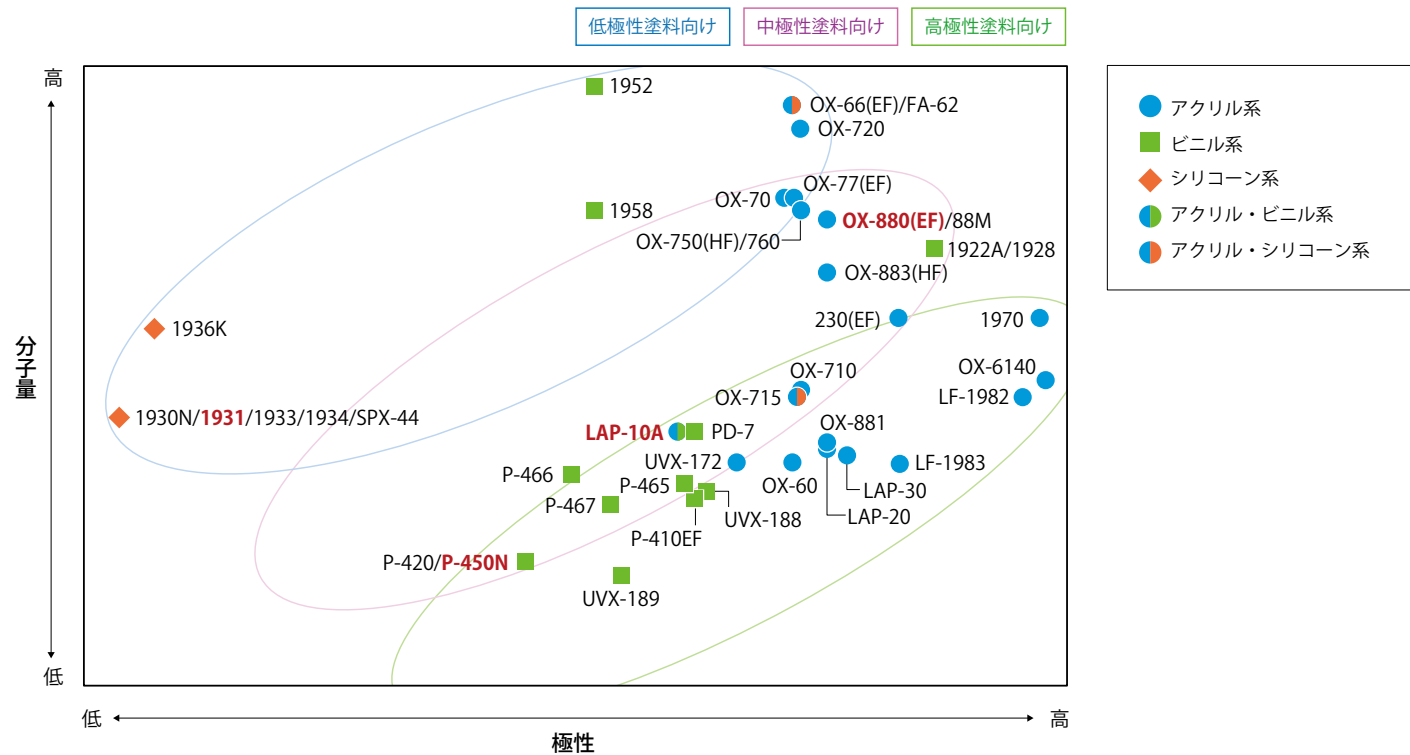
6650

*液状品の効果は顔料種類・濃度・樹脂系に依ります。



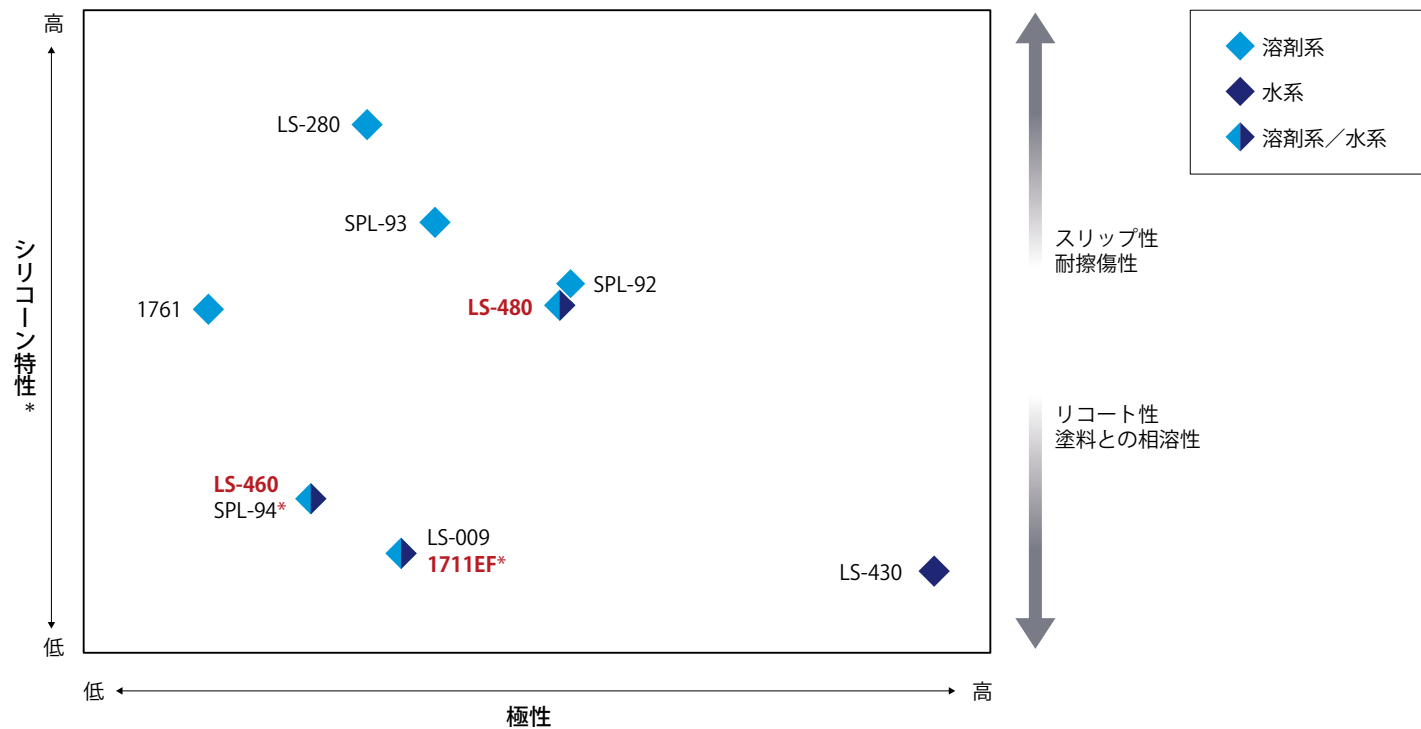
品番選択のポイント

- ・選定が難しい場合 代表品番よりお試しください。
- ・無機顔料には●品番、有機顔料・カーボンブラックには●品番からお試しください。
- ・分散剤選定にあたり、まずは樹脂溶液へ分散剤を添加し、濁りやゲル化が無いかが御確認ください。



品番選択のポイント

- ・選定が難しい場合 **代表品番** よりお試しください。
- ・添加することで「ハジキ」現象が発生する場合、分子量はより低く・極性はより高い品番 (**右下方向**) で再検討をお願いします。
- ・消泡効果が十分でない場合、分子量は高く・極性はより低い品番 (**左上方向**) で再検討をお願いします。
- ・塗料の極性は p.28 をご参照ください。



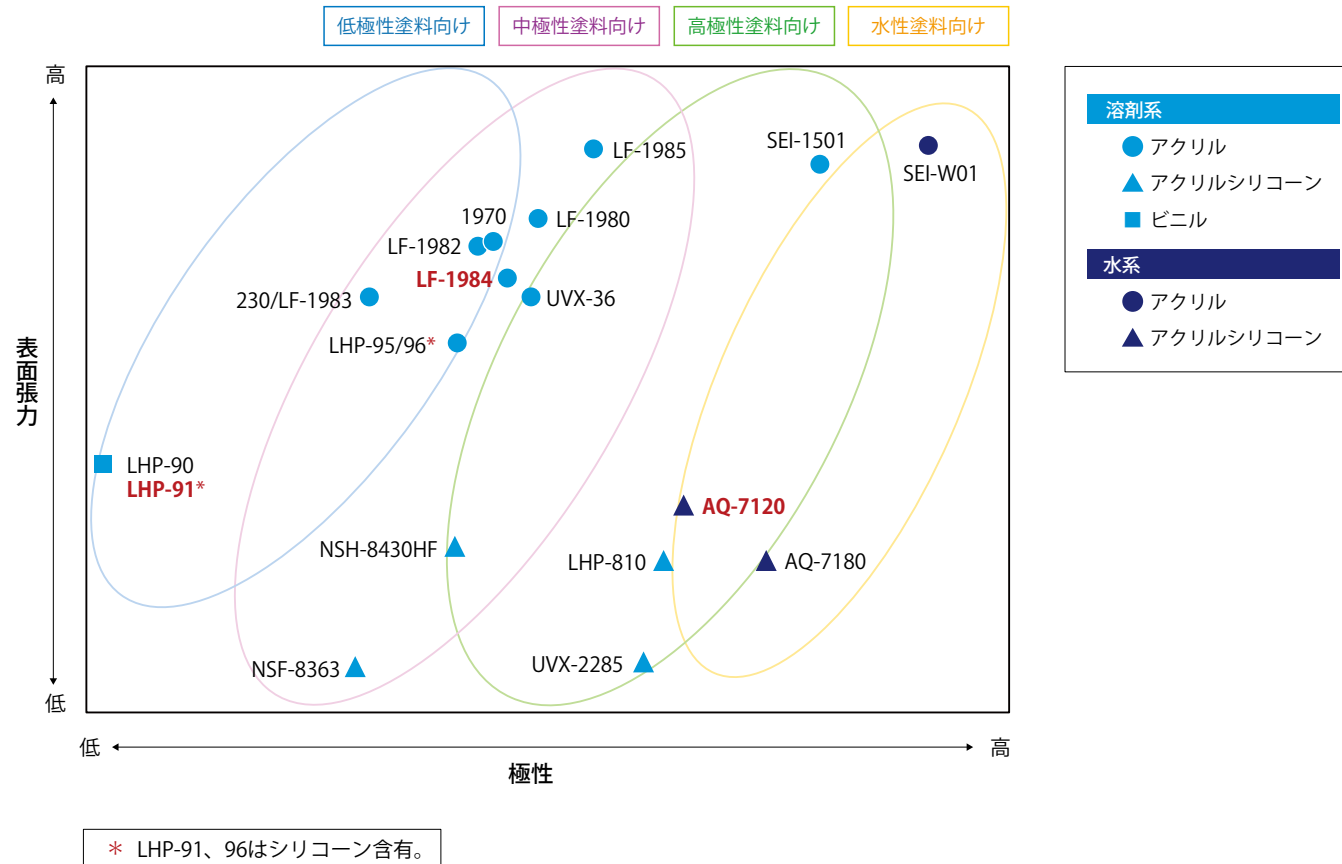
* SPL-94、1711EFは溶剤系向けです。



品番選択のポイント

- ・選定が難しい場合 **代表品番**よりお試しください。
- ・各機能（レベリング性、濡れ性、ハジキ防止性等）は、塗料に近い極性をもつ品番が、最も効果を発揮します。
- ・スリップ性が不十分な場合、シリコン特性のより高い品番（上方向）で再検討をお願いします。
リコート性（再塗装性）に悪影響が出た場合、シリコン特性のより低い品番（下方向）で再検討をお願いします。

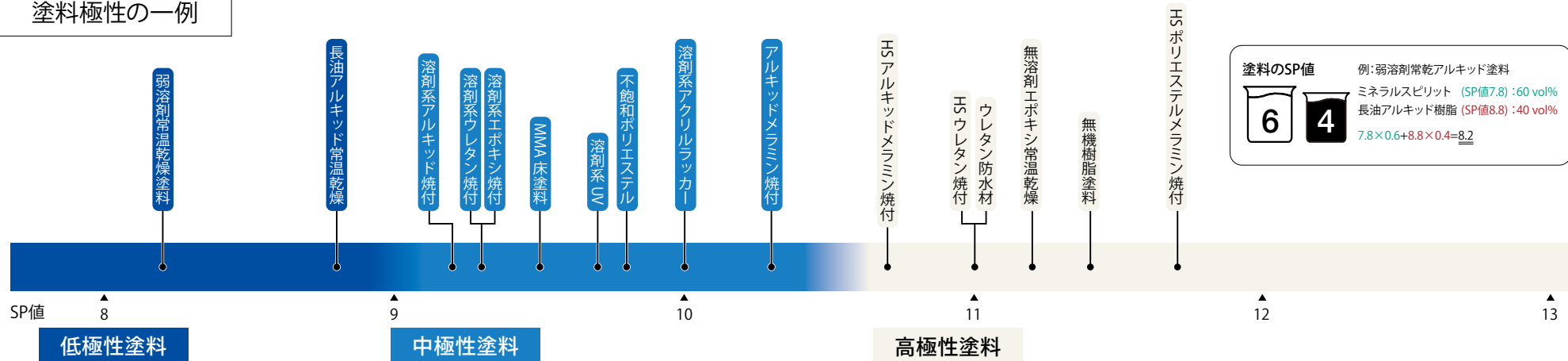
*「シリコン特性」は、分子中のポリジメチルシロキサン存在比率より計算された特数値であり、スリップ性やハジキ防止性などのシリコン特有の機能性を示す指標です。



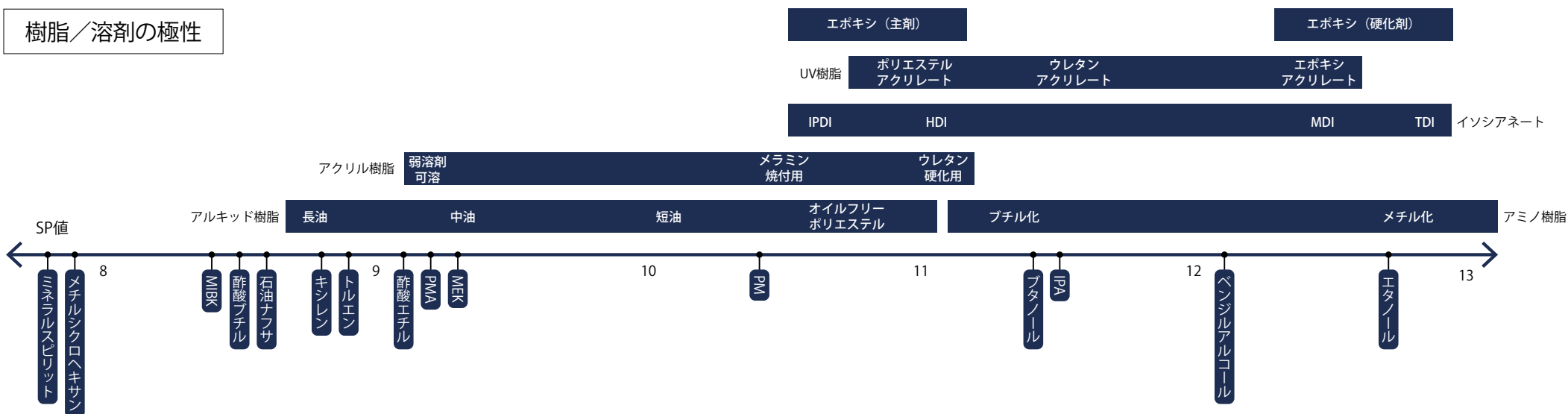
品番選択のポイント

- ・選定が難しい場合 代表品番よりお試しください。
- ・レベリング性は、塗料に近い極性をもつ品番が、最も効果を発揮します。塗料の極性は p.28 をご参照ください。
- ・ハジキ防止効果が不十分な場合、表面張力のより低い品番 (下方向) で再検討をお願いします。リコート性 (再塗装性) に悪影響が出る場合は表面張力のより高い品番 (上方向) で再検討をお願いします。

塗料極性の一例



樹脂／溶剤の極性



i 一覧に記載の SP 値 (Solubility Parameter) はあくまでも一例であり、樹脂のメーカー・グレードにより異なります。
 樹脂・溶剤・希釈剤等の配合比により、最終的な塗料の SP 値が決定します。
 樹脂固形分の高い HS (ハイソリッド) 塗料は極性が高い傾向にあり、溶剤比率の高い塗料は含有溶剤の SP 値に近くなります。

Kusumoto Chemicals as Solution Partner



添加剤事業部

添加剤の開発・製造販売
King industries 社の総代理店

<ディスパロン 製品>

チクソトロピック剤
顔料湿潤分散剤
消泡・ワキ防止剤
表面調整剤

< KING 社 取り扱い製品 >

Nacure : 酸触媒
Flexorex : 樹脂改質剤
Nacorr : 液状防錆剤
K-KAT : 金属触媒
K-PURE : 熱酸発生剤



化成品事業部

商社活動にメーカー機能をプラスして
自社技術による製品拡充にも積極的に取り組む

当社創業当時の事業である化成品事業部は樹脂、精密化学品、電子材料に至るまで幅広い専門領域を対象としています。

<主要取引メーカー>

DIC/ 宇部興産 / テイカ / 栗田工業 / モメンティブ

<自社オリジナル品>

軟膏容器



国際ビジネス部

世界のユニークな製品を
日本総代理店として輸入販売

<主要取引メーカー>

Covestro : 水系樹脂全般
Vanora : 水系パーサチック酸アクリル樹脂
Graf : シランシロキサン系エマルジョン
Tolsa : セピオライト
Chitec : UVA、HALS、UV 開始剤



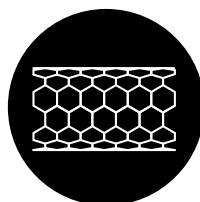
エタック事業部

環境試験器の設計開発・販売
信頼性試験・分析受託サービスの提供

環境試験・寿命試験から原因究明型故障解析まで、信頼性試験・分析業務の主要なプロセスを一貫してサポート。

ヨーロッパ No.1 環境試験器メーカーの Weiss Technik 社との協業もスタートし、EU のスタンダード試験を実施可能な各種 weiss 製試験器も取り扱っています。

主な試験機：恒温器、温湿度サイクル試験器



CNT 事業推進室

単層カーボンナノチューブの販売
OCSiAI 社の製造する SWCNT の提供

ディスパロンの研究開発で培ったフィラーに対する湿潤、分散技術をベースに TUBALL™ 単層カーボンナノチューブというユニーク且つ大変優れた電気導電性や機械的特性を付与できるポテンシャルを有する材料をより身近な商品開発でご利用いただくため、TUBALL™ SWCNT を使用した弊社独自の添加剤開発を推進することとしました。

「ディスパロン」は、 世界の塗料分野を中心に さらなる技術革新をサポートします。

楠本化成 Official

添加剤を制する者は塗料を制する！
入門講座から最新情報まで
塗料設計や基礎勉強をしたい方必見です！



Online コンテンツはこちら

塗料をもっと楽しもう『テレビ KC』

塗料メーカーとコラボ企画を続々公開中！
多岐多様な塗料の使い方や解説をしています。
私たちは塗料のある生活を応援します。

国内拠点一覧

- 研究所 (埼玉県)
- 鹿島工場 (茨城県)
- 草加工場 (埼玉県)
- 越谷工場 (埼玉県)
- 物流センター (埼玉県)



草加工場



草加工場研究所

ディスパロン機能体系

チクソトロピック剤

ダレ防止
沈降防止



無添加



添加



無添加

添加

分散剤

色分かれ防止
顔料湿潤分散



無添加



添加

消泡剤

消泡
ワキ防止



無添加



添加

表面調整剤

レベリング
スリップ性付与
ハジキ防止
濡れ向上



無添加



添加



無添加



添加

INTERNATIONAL DISTRIBUTORS NETWORK



- ① KING INDUSTRIES INC. (U.S.A.)
(アメリカ, カナダ, メキシコ, 南米諸国)
- ② C.H.ERBSLÖH (GERMANY)
(ドイツ, オーストリア, ポーランド, ロシア, スイス, スカンジナビア, チェコ)
- ③ EIGENMANN & VERONELLI S.p.A. (ITALY)
(イタリア)
- ④ IMCD BENELUX N.V. (BELGIUM)
(ベルギー)
- ⑤ IMCD BENELUX B.V. (NETHERLAND)
(オランダ)
- ⑥ LAKE CHEMICALS & MINERALS LTD (U.K.)
(イギリス)
- ⑦ COMEXIM EUROPE (FRANCE)
(フランス)
- ⑧ CROMOGENIA-UNITS.S.A. (SPAIN)
(スペイン, ポルトガル)
- ⑨ KELLY INTERNATIONAL (SHANGHAI) Co., Ltd (CHINA)
(中国)
- ⑩ KELLY CHEMICAL CORPORATION (TAIWAN)
(台湾)
- ⑪ AVIDCO ASIA PACIFIC SDN BHD (MALAYSIA)
(マレーシア, シンガポール)
- ⑫ SE WON CORPORATION (KOREA)
(韓国)
- ⑬ CHEMICAL PLUS CO., LTD. (THAILAND)
(タイ)
- ⑭ ALCHEMY AGENCIES PTY. LTD. (AUSTRALIA)
(オーストラリア)
- ⑮ ALCHEMY AGENCIES LTD. (NEW ZEALAND)
(ニュージーランド)
- ⑯ PT. KHARINDO PRAKARSA (INDONESIA)
(インドネシア)
- ⑰ AN THANH PTE. (VIETNAM)
(ベトナム)
- ⑱ SAR KIMYA (TURKEY)
(トルコ)
- ⑲ UNIQUE SPECIALITY CHEMICALS (INDIA)
(インド)
- ⑳ YAKSR (PVT.) LIMITED (PAKISTAN)
(パキスタン)

 **楠本化成株式会社**

<https://www.kusumoto.co.jp/>



営業窓口

本社 添加剤事業部	〒 101-0047 東京都千代田区内神田 1-11-13 楠本ビル TEL.03-3292-8685 (代表)
大阪支店	〒 553-0003 大阪府大阪市福島区福島 5-16-18 楠本第 8 ビル TEL.06-6452-2011 (代表)
名古屋支店	〒 460-0003 愛知県名古屋市中区錦 1-7-1 楠本第 9 ビル TEL.052-212-4760 (代表)
福岡支店	〒 812-0014 福岡県福岡市博多区比恵町 1-1 楠本第 7 ビル TEL.092-475-7971 (代表)
札幌営業所	〒 001-0010 北海道札幌市北区北十条西四丁目 楠本第 10 ビル TEL.011-747-6091 (代表)



地球環境に配慮した
植物油インキを使用しています。

改定：2023年2月